

弘前大学大学院

医学研究科医科学専攻 概要

平成 29 年 度

表紙説明：

内側前頭前野 mPFC における恐怖記憶の想起または消去後の最初期遺伝子産物 c-Fos の発現

恐怖条件学習後に形成された恐怖記憶は想起時に左右前帯状皮質 ACC(A)の神経細胞における c-Fos 発現を誘導する(FC; B 及び C 中段)。恐怖消去学習は ACC 神経細胞における c-Fos 発現を減弱する(EX; B 及び C 下段)。抑制性神経細胞は PV(Parvalbumin; A 及び B)または SST (Somatostatin; C) で標識した。

目 次

1. 医学研究科医科学専攻の現状	1
2. 設置目的	2
3. 入学者受入方針（アドミッションポリシー）	2
4. 教育課程編成・実施の方針及び学位授与の方針について	2
5. 教育方法・修行年限・学位授与	3
6. 沿革	4
7. 組織図	8
8. 歴代医学研究科長	10
9. 専攻及び領域・教育研究分野・担当大学院講座	11
10. 各領域の研究室構成及び研究テーマ	14
11. 収容定員及び在籍学生数	72
12. 入学状況及び就職状況	73
13. 過去5年間の研究生在籍者数	74
14. 学位授与数	75
15. 平成28年度博士（医学）の学位取得者及び論文題目	76
16. 弘前大学医学部学術賞受賞者	80
17. 弘前大学大学院医学研究科医科学専攻の特徴とその要点	86
18. 医学研究科学事委員会	89

1. 医学研究科医科学専攻の現状



大学院医学研究科長

若 林 孝 一

弘前大学大学院医学研究科の入学定員は、平成28年度に10名増えて現在は60名です。この定員増は大学院医学研究科の部局化（平成19年4月）とともに大学院の役割が大きくなったことを意味しています。過去には大学院の充足率が一時的に低迷した時期もありましたが、平成22年度に収容定員充足率100%を達成して以来、高い充足率を維持しています。これもひとえに若い人たちの高度な学問への志向と多くの教職員の熱意の賜です。近年弘前大学大学院の環境が整備され、充実したこともその要因の一つかと喜んでいます。

学部学生のうちから研究への志向を高めるための取り組みとして、弘前大学医学部医学科では1年次の基礎人体科学演習、3年次の研究室研修、6年次のクリニカルークラークシップでの講座配属を行っています。実際に学生に接していると、研究手技の修得、向上よりも、学生自らが興味を持ち、自発的に研究を進める喜びを感じることがいかに重要であるかを感じます。

医学部を卒業した者のうち、将来、研究に専念できる者は少数かもしれません。しかし、人生のある時期、研究に没頭できることは、臨床医としての技量を伸ばすことにも通ずると思います。新たな専門医制度が導入され、医師免許を取得した者は何らかの専門医を目指すことになります。そのこと自体を否定するものではありませんが、もっと研究を含めた時間的ゆとりと選択の多様性があってよいと思います。自分は医学科を卒業後、すぐに基礎医学（神経病理学）の大学院に飛び込み、4年間みっちり研究できました。それが今の自分の礎になっていることは間違いありません。さらに、弘前大学大学院医学研究科は医学部に限らず、他の学問領域の学生、研究者、社会人にも門戸を開いています。むしろ、スポーツ医学を含め、そのような取り組みを積極的に進めています。

医学に限らず学問には「深み」と「広がり」があります。その両方を経験できるのが大学院での学問研究です。優れた指導者のもとで、自ら学ぶことの楽しさを覚えた者は、一生をかけて自らの学問を発展させてゆくことになるでしょう。ひとりでも多くの方がそのような道を歩んで下さることを願っています。

2. 設置目的

本研究科における人材養成及び教育研究上の目的は次のとおりです。

- ・最新の医学に関する幅広い知識を有する人材の養成
- ・基礎医学と臨床医学の融合的研究を推進できる研究者の養成
- ・広い視野と独創性を有し国際的に活躍できる医学研究者の養成
- ・高度な臨床技能と厳しい倫理観を有する医療人の養成
- ・社会の要請に的確に対応し、研究成果を社会に還元できる研究拠点の形成

3. 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

求める学生像

- ・先端的な医学研究や生命科学研究を行う研究者を志す人
- ・高度な専門性と厳格な倫理観を有する医療人として社会に貢献したい人
- ・優れた医師や医療従事者を育成する医学教育者を志す人
- ・国際的な視野を持ち、世界を舞台に活躍したい人

学んでおくべきこと・取得が望ましい資格

- ・外国語（英語）の基礎的読解力と作文能力
- ・研究を遂行するに必要な専門分野に関する基礎的知識・学力

4. 教育課程編成・実施の方針及び学位授与の方針について

（１） 修了時の到達目標

- ・先端的研究を推進できる高度な研究能力を身に付ける。
- ・最新の医学に関する幅広い学識を養う。
- ・豊かな人間性と国際的な視野をもって医療・教育・研究活動を行うことができる。

（２） 教育課程編成の方針

1 年次、2 年次には医学に関する研究の遂行及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目標に共通科目（基礎科目、学際科目）と専門科目の授業を学びます。3 年次、4 年次には専攻分野について自立して研究活動を行い、専門的な業務に従事するために必要な研究能力を培い、論文作成を行います。

（３） 成績評価基準

単位修得の認定は、レポート、口頭試問、筆記試験等により行います。授業科目の履修成績は、下記の基準により評価します。

秀（100－90点）	修得した高度の専門的学識及び能力を相互に関連付けて応用できる
優（89－80点）	修得した高度の専門的学識及び能力を応用できる
良（79－70点）	高度の専門的学識及び能力を修得している
可（69－60点）	最低限必要な高度の専門的学識及び能力を修得している
不可（59－0点）	最低限必要な高度の専門的学識及び能力を修得していない

（4）学 位 審 査

博士論文の評価は公開で行われる学位審査会において、主査1名、副査2名の教授による論文審査と最終試験によって行います。

（5）教育課程の概要

分子遺伝情報科学，脳神経科学，腫瘍制御科学，循環病態科学，機能再建・再生科学，総合医療・健康科学，感覚統合科学，病態制御科学，成育科学の9つの領域によって構成されています。国際的な視野で先端的研究を推進できる医学研究者および高度な専門性と倫理観を有する医療人の育成を目的にしています。

（6）到達目標

① 知識・理解

専門分野における基礎知識から専門知識まで身に付け、研究を通して問題解決能力を身に付ける。

② 当該分野固有の能力

豊かな人間性と国際的な視野をもって研究することの重要性を学び、医療の進歩に貢献できる能力を身に付ける。

③ 汎用能力

研究成果の学会発表，論文作成などを通して、医学教育・研究活動の重要性を学ぶ。

5．教育方法・修業年限・学位授与

（1）教育方法

本研究科の教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に関する指導（研究指導）によって行う。

〈授業科目の履修〉

学生は、所定の期間内に専攻の授業科目中30単位以上修得することとする。

（30単位の内訳）

（1）共通科目 基礎科目 6 単位以上 学際科目 4 単位以上

（2）専門科目 所属領域14単位以上 所属領域以外 6 単位以上

(2) 修 業 年 限

標準修業年限 4 年

修業年限短縮 3 年または 3 年半〈優れた研究業績を上げた者は、3 年または 3 年半在学し修了することができる。〉

(3) 学 位 授 与

本研究科に 4 年以上〈修業年限の短縮を認められた者は 3 年または 3 年半〉在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査及び博士論文を中心とした最終試験に合格した者には、博士〈医学〉の学位を授与する。

6. 沿 革

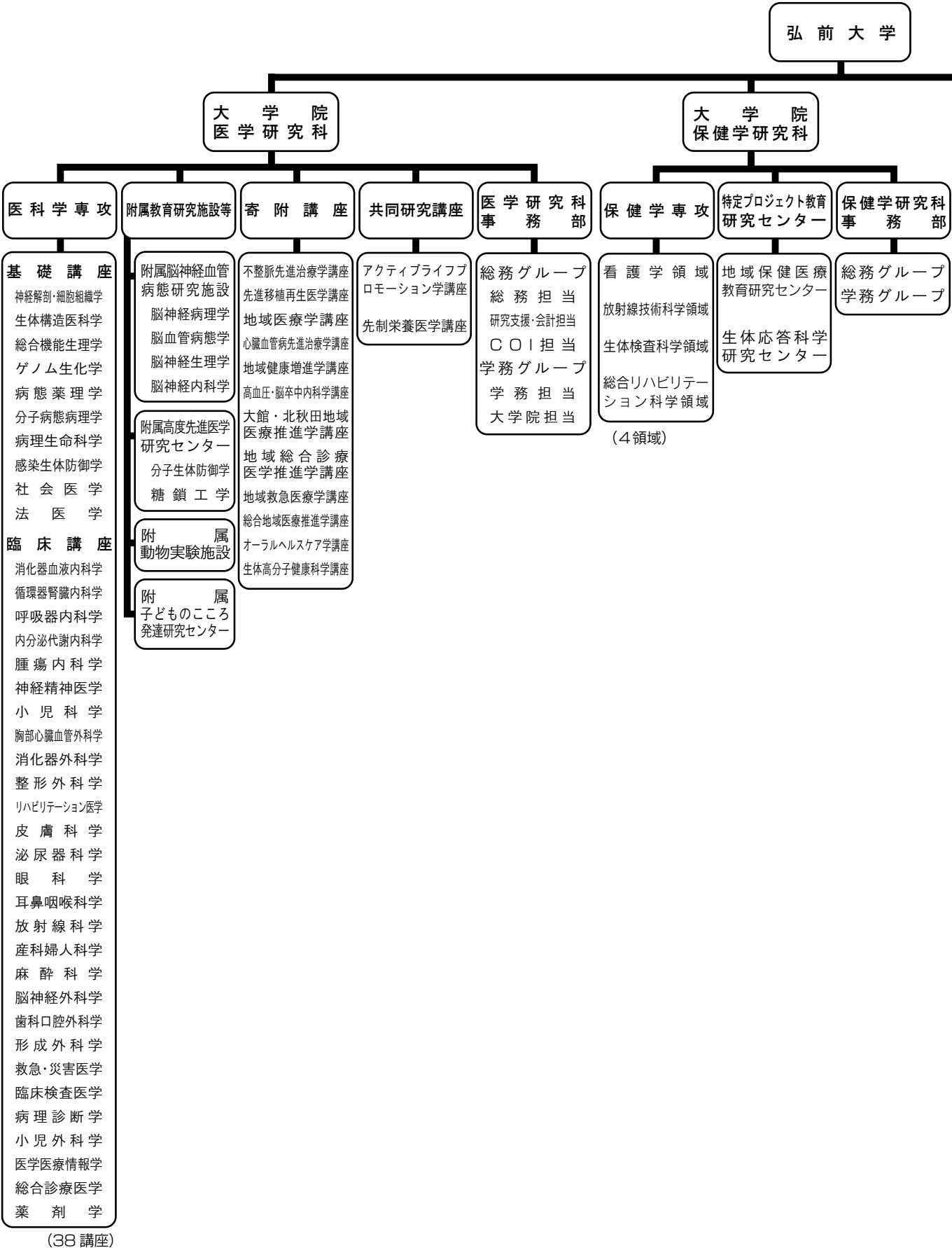
昭和19年 4 月 1 日	青森医学専門学校設置（勅令第165号）
昭和20年 4 月 1 日	青森医学専門学校の附属医院として県立青森病院を移管
昭和20年 7 月28日	戦災のため、附属医院及び寄宿舎を焼失
昭和22年 3 月10日	青森医学専門学校校舎を弘前市に移転
昭和22年 3 月15日	青森医学専門学校の弘前市移転に伴い、市立弘前病院を附属医院として移管
昭和23年 2 月10日	弘前医科大学設置（政令第33号）
昭和24年 5 月31日	国立学校設置法により青森医学専門学校、弘前医科大学を包括、新制弘前大学医学部設置（法律第150号） 弘前大学医学部設置に伴い、青森医学専門学校附属医院は医学部附属医院と改称
	開設科は、第一内科、第二内科、精神科、小児科、第一外科、第二外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科（11診療科）
昭和26年 3 月31日	青森医学専門学校閉校
昭和26年 4 月 1 日	医学部開設 開設講座は、解剖学第一、解剖学第二、生理学、生化学、病理学第一、病理学第二、細菌学、薬理学、衛生学、法医学（10基礎講座） 内科学第一、内科学第二、小児科学、精神科学、外科学第一、外科学第二、整形外科学、皮膚泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産婦人科学、放射線医学（12臨床講座）
昭和27年 3 月 1 日	附属病院整形外科設置（12診療科）
昭和28年 4 月 1 日	医学部生理学講座が生理学第一、生理学第二講座に分離開設（11基礎講座）
昭和30年 4 月 1 日	医学部進学課程設置
昭和31年 1 月20日	弘前医科大学学位規定（旧制）の制定認可
昭和32年 4 月 1 日	附属病院精神科が神経精神科と改称

昭和33年 4 月 1 日	国立学校設置法の一部を改正する法律の公布により大学院(医学研究科)設置 (法律第28号) 定員は生理系 6 名, 病理系 3 名, 社会医学系 2 名, 内科系 5 名, 外科系 7 名の計23名 (1 講座 1 名) 医学部公衆衛生学講座設置 (12基礎講座) 医学部精神科学講座が神経精神医学講座に, 産婦人科学講座が産科婦人科学講座と改称
昭和33年 4 月22日	学位規則制定。大学院修了者は甲, 論文提出による学位取得者は乙
昭和35年 3 月31日	国立学校設置法の一部を改正する法律の公布により弘前医科大学廃止 (法律16号) 旧制学位制度終了
昭和37年 4 月 1 日	附属病院皮膚泌尿器科が皮膚科, 泌尿器科に分離開設 (13診療科) 附属病院薬剤部設置
昭和37年10月 1 日	医学部皮膚泌尿器科学講座が皮膚科学講座, 泌尿器科学講座に分離開設 (13臨床講座)
昭和40年 4 月 1 日	医学部麻酔学講座設置 (14臨床講座) 附属脳卒中研究施設 (成因部門) 設置
昭和41年 4 月 1 日	大学院学生定員の改訂。生理系12名, 病理系 6 名, 社会医学系 6 名, 内科系12名, 外科系12名の計48名 (1 講座 2 名) 医学部寄生虫学講座設置 (13基礎講座) 附属病院麻酔科設置 (14診療科) 附属病院中央臨床検査部設置
昭和42年 4 月 1 日	附属病院歯科診療科設置 (15診療科) 附属病院中央手術部設置 附属脳卒中研究施設に病態生理部門設置 (2 部門)
昭和42年 6 月16日	附属病院神経精神科が神経科精神科に, 産婦人科は産科婦人科と改称
昭和43年 4 月 1 日	大学院学生定員増。外科系専攻 2 名
昭和45年 4 月 1 日	医学部内科学第三講座設置 (15臨床講座) 附属病院第三内科設置 (16診療科)
昭和46年 4 月 1 日	大学院学生定員増。外科系専攻 2 名
昭和47年 4 月 1 日	大学院学生定員増。病理系専攻 2 名
昭和47年 5 月 1 日	医学部生化学講座が生化学第一, 生化学第二講座に分離開設 (14基礎講座) 医学部脳神経外科学講座設置 (16臨床講座) 附属病院脳神経外科設置 (17診療科)
昭和50年 4 月 1 日	大学院学生定員増。生理系専攻 2 名, 病理系専攻 2 名
昭和50年10月 1 日	附属病院歯科が歯科口腔外科と改称 附属病院中央材料部設置
昭和51年 4 月 1 日	附属病院中央放射線診療部設置 大学院学生定員増。内科系専攻 2 名
昭和51年 5 月10日	附属病院看護部設置
昭和52年 4 月 1 日	附属脳卒中研究施設にリハビリテーション部門設置 (3 部門)
昭和53年 4 月 1 日	大学院学生定員増。外科系専攻 2 名

昭和53年10月 1 日	附属病院救急部設置
昭和54年 4 月 1 日	医学部歯科口腔外科学講座設置（17臨床講座） 附属動物実験施設設置
昭和54年10月 1 日	附属病院分娩部設置
昭和55年 4 月 1 日	附属病院理学療法部設置 大学院学生定員増。生理系専攻 2 名
昭和56年 4 月 1 日	附属病院輸血部設置
昭和57年 4 月 1 日	附属脳卒中研究施設に神経内科部門設置（4 部門） 附属病院形成外科設置（18診療科）
昭和59年 4 月11日	附属病院集中治療部設置
昭和62年 5 月21日	医学部臨床検査医学講座設置（18臨床講座）
平成元年 5 月29日	附属脳神経疾患研究施設設置（神経病理部門，病態生理部門，リハビリテーション部門，臨床神経部門，遺伝子工学部門）（附属脳卒中研究施設の改組）
平成 3 年 4 月12日	附属病院分娩部を附属病院周産母子センターに改組
平成 5 年 4 月 1 日	附属病院病理部設置
平成 7 年 4 月 1 日	医学部形成外科学講座設置（19臨床講座）
平成 8 年 3 月 5 日	医学部コミュニケーションセンター寄附
平成 8 年 4 月 1 日	附属病院医療情報部設置
平成 9 年 4 月 1 日	医学部老年科学講座設置（20臨床講座） 附属病院小児外科設置（19診療科）
平成10年 4 月 9 日	附属病院光学医療診療部設置
平成11年 4 月 1 日	医学部臨床薬理学講座設置（21臨床講座） 附属脳神経血管病態研究施設設置（分子病態部門，脳血管病態部門，機能回復部門，神経統御部門，細胞工学部門）（附属脳神経疾患研究施設の廃止）
平成12年10月 1 日	医学部保健学科設置
平成14年 4 月 1 日	附属病院理学療法部をリハビリテーション部に改組
平成15年 4 月 1 日	医学部救急・災害医学講座設置（22臨床講座） 附属病院総合診療部設置
平成16年 4 月 1 日	国立大学法人法により弘前大学医学部設置 大学院（医学研究科）が5 専攻（生理系，病理系，社会医学系，内科系及び外科系）を1 専攻（医科学）に改組
平成17年 3 月31日	附属脳神経血管病態研究施設 細胞工学部門の廃止
平成17年 4 月 1 日	医学部衛生学講座と公衆衛生学講座を改組し，社会医学講座を設置（13基礎講座） 附属高度先進医学研究センター設置 大学院医学研究科が医学系研究科（医科学専攻，保健学専攻）に改組 附属病院神経内科設置（20診療科） 附属病院第一内科が消化器内科・血液内科・膠原病内科に，第二内科が循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科に，第三内科が内分泌内科・糖尿病

	代謝内科・感染症科に，第一外科が呼吸器外科・心臓血管外科に，第二外科が消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科と改称
平成18年10月1日	医学部細菌学講座と寄生虫学講座を改組し，感染生体防御学講座を設置（12基礎講座）
平成19年2月1日	医学部腫瘍内科学講座設置（23臨床講座）
平成19年4月1日	大学院医学系研究科を大学院医学研究科に改組し，部局化（36講座） 附属病院腫瘍内科設置（21診療科） 大学院入学定員55名に変更
平成21年4月1日	大学院入学定員50名に変更
平成22年4月1日	附属病院救急部を廃止し，附属病院高度救命救急センターを設置
平成22年5月1日	大学院医学研究科病理診断学講座設置（36講座）
平成22年10月1日	附属病院消化器内科・血液内科・膠原病内科が消化器内科，血液内科，膠原病内科に，循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科が循環器内科，呼吸器内科，腎臓内科に，内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科が内分泌内科，糖尿病代謝内科，感染症科に，呼吸器外科・心臓血管外科が呼吸器外科，心臓血管外科に，消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科が消化器外科，乳腺外科，甲状腺外科と改称（30診療科）
平成24年11月21日	附属病院スキルアップセンター設置
平成25年4月1日	附属病院病理診断科設置（31診療科） 附属病院医療技術部設置
平成25年7月1日	附属病院治験管理センターを附属病院臨床試験管理センターに改組
平成26年4月1日	附属病院救急科設置（32診療科） 大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター設置
平成26年12月1日	大学院医学研究科循環呼吸腎臓内科学講座を改組し，循環器腎臓内科学講座及び呼吸器内科学講座を設置 大学院医学研究科総合医学教育学を改組し，総合診療医学講座を設置 大学院医学研究科にリハビリテーション医学講座を設置（38講座）
平成27年2月6日	附属病院S C U設置
平成27年2月25日	附属病院女性医師支援施設竣工
平成27年4月1日	附属病院地域連携室を改組し，附属病院総合患者支援センターを設置
平成27年5月1日	附属病院リハビリテーション科設置（33診療科）
平成28年4月1日	大学院入学定員60名に変更
平成28年10月1日	附属病院M E センターを附属病院臨床工学部に改称

7. 組 織 図



(38 講座)

8. 歴代医学研究科長

氏 名	就 任 年 月	研究科長・学部長
丸 井 清 泰	昭和24年 5 月	医学部長
工 藤 喬 三	昭和28年 8 月（事務取扱）	〃
工 藤 喬 三	昭和28年11月	〃
佐 藤 熙	昭和30年11月（研究科長） 昭33年 4 月	医学研究科長 〃
片 桐 主 一	昭和37年 2 月	〃 〃
中 村 勉	昭和37年 5 月	〃 〃
佐 藤 光 永	昭和41年 5 月	〃 〃
白 渕 勇	昭和45年 5 月	〃 〃
松 永 藤 雄	昭和47年 2 月	〃 〃
大 池 弥 三 郎	昭和50年 4 月	〃 〃
東 野 修 治	昭和53年 2 月	〃 〃
山 口 富 雄	昭和61年 2 月	〃 〃
吉 田 豊	昭和63年 2 月	〃 〃
福 士 主 計	平成 4 年 2 月	〃 〃
吉 田 豊	平成 6 年 2 月	〃 〃
遠 藤 正 彦	平成 8 年 2 月	〃 〃
菅 原 和 夫	平成14年 2 月	〃 〃
兼 子 直	平成16年 2 月	〃 〃
佐 藤 敬	平成18年 2 月	〃 〃
中 路 重 之	平成24年 2 月	〃 〃
若 林 孝 一	平成28年 2 月	〃 〃

9. 専攻及び領域・教育研究分野・担当大学院講座

専攻	領域	教育研究分野	担当大学院講座
医科学専攻	分子遺伝情報科学	生物化学	ゲノム生化学
		生体情報病態学	病理生命科学
		分子遺伝検査学	臨床検査医学
		分子情報学	分子生体防御学
		医用実験動物学	動物実験施設
	脳神経科学	神経解剖・細胞組織学	神経解剖・細胞組織科学
		神経内分泌学	生体構造医科学
		システム生理学	統合機能生理学
		神経・脳代謝制御学	統合機能生理学
		精神・神経分子科学	神経精神医学
		システム認知科学	神経精神医学
		麻酔・疼痛制御医学	麻酔科学
		脳血管障害学	脳神経外科学
		機能的脳神経外科学	脳神経外科学
		神経病理学	脳神経病理学
		分子病態学	脳神経病理学
		脳血管病態学	脳血管病態学
		神経生理学	脳神経生理学
		脳神経病態内科学	脳神経内科学
	腫瘍制御科学	腫瘍生化学	ゲノム生化学
		腫瘍標的分子制御学	分子病態病理学
		腫瘍病理学	病理生命科学
		腫瘍内科学	腫瘍内科学
		胸部外科学	胸部心臓血管外科学
		消化器外科学	消化器外科学
		乳腺・甲状腺外科学	消化器外科学
		泌尿器腫瘍学	泌尿器科学
		放射線腫瘍学	放射線科学
		婦人科腫瘍学	産科婦人科学
		脳腫瘍学	脳神経外科学
		顎口腔腫瘍病態学	歯科口腔外科学
	循環病態科学	外科病理診断学	病理診断学
		循環薬理学	病態薬理学
		循環病態内科学	循環器腎臓内科学
		心臓血管外科学	胸部心臓血管外科学
		脳循環病態学	脳血管病態学
		不整脈先進治療学	不整脈先進治療学
		心臓血管病先進治療学	心臓血管病先進治療学
	機能再建・再生科学	高血圧・脳卒中内科学	高血圧・脳卒中内科学
		免疫制御学	感染生体防御学
		再生再建理論外科学	胸部心臓血管外科学
		消化器移植再建医学	消化器外科学
		運動機能病態修復学	整形外科学
		脊椎脊髄病態修復学	整形外科学

専攻	領域	教育研究分野	担当大学院講座
医科学専攻	機能再建・再生科学	泌尿器移植再生医学	泌尿器科学
		視覚再建医学	眼科学
		顎口腔機能再建学	歯科口腔外科学
		創傷治癒学	形成外科学
		体表機能形態再建学	形成外科学
		抗加齢・再生医学	糖鎖工学
		先進移植再生医学	先進移植再生医学
		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学
	総合医療・健康科学	社会医療総合医学	社会医学
		スポーツ健康科学	社会医学
		地域健康増進学	地域健康増進学
		法医学	法医学
		精神・発達医療学	神経精神医学
		放射線診断学	放射線科学
		集中治療医学	麻酔科学
		危機管理医学	救急・災害医学
		医療情報学	医学医療情報学
		総合診療医学	総合診療医学
		薬毒物分析学	薬剤学
		プロテオソーム解析学	薬剤学
		地域医療学	地域医療学
		地域健康増進学	地域健康増進学
		地域医療推進学	地域医療推進学
		地域総合診療医学推進学	地域総合診療医学推進学
		地域救急医療学	地域救急医療学
		総合地域医療推進学	総合地域医療推進学
		オーラルヘルスケア学	オーラルヘルスケア学
		アクティブライフプロモーション学	アクティブライフプロモーション学
		先制栄養医学	先制栄養医学
	感覚統合科学	皮膚科学	皮膚科学
		眼科学	眼科学
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科学
		感覚生理学	脳神経生理学
		画像情報・生体光学	医学医療情報学
	病態制御科学	生体機構学	生体構造医科学
		機能制御薬理学	病態薬理学
		分子病態薬理学	病態薬理学
		形態分子病理診断学	分子病態病理学
		病態病理学	分子病態病理学
		感染生体防御学	感染生体防御学
		消化器内科学	消化器血液内科学
		血液内科学	消化器血液内科学
		臨床免疫学	消化器血液内科学
		呼吸病態内科学	呼吸器内科学
		腎臓病態内科学	循環器腎臓内科学
		内分泌代謝内科学	内分泌代謝内科学

専攻	領域	教育研究分野	担当大学院講座
医科学専攻	病態制御科学	病態検査学	臨床検査医学
		細胞計量解析学	病理診断学
		分子生体防御学	分子生体防御学
		糖鎖工学	糖鎖工学
		生体高分子健康科学	生体高分子健康科学
	成育科学	生殖発生遺伝学	生体構造医科学
		小児病態学	小児科学
		生殖機能病態学	産科婦人科学
		周産期医学	産科婦人科学
		小児外科学	小児外科学

10. 各領域の研究室構成及び研究テーマ

講座名 神経解剖・細胞組織学	
領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	神 経 解 剖 ・ 細 胞 組 織 学
1 研究室構成及び紹介 教授 下田 浩（生体構造医科学講座教授兼任） 講師 浅野義哉，助教 齊藤絵里奈 助手 岡野大輔	
2 現在の研究テーマ ◆リンパ管と血管に関する分子形態学的研究 「リンパ管とは何か？」の答えを見つけるべく，組織化学，分子形態学的手法を用いて，リンパ管の発生・新生の解明からリンパ行性がん転移やリンパ浮腫の治療戦略の開発まで研究を行っている。研究対象は小型魚類からヒトまで多岐に亘る。併せて，血管・リンパ管系を含む様々な器官の三次元ヒト生体組織の開発と再生医療・創薬への応用ならびに新規医学研究モデルの確立を進めている。 ・リンパ管を中心とした微小循環系の機能構築と形成メカニズムの分子形態学的解析 ・リンパ管の個体・系統発生と新生メカニズムの分子形態学的研究 ・がんリンパ管新生と転移機構の分子形態学的解析 ・小型魚類を用いたリンパ管・血管形成とがん脈管新生・侵襲の生体イメージング解析 ・血管・リンパ管系を含む三次元ヒト生体組織の開発と再生医療・創薬への応用ならびに新しい医学研究モデルの確立 ・リンパ浮腫治療戦略としてのリンパ管新生ドラッグデリバリーシステムの開発 ◆生体内非ヘム鉄分布に注目した組織傷害及び加齢メカニズムの研究 ・細胞内微量鉄の高感度可視化による脳の病因遊離鉄生成及び神経細胞変性機序の解明 ・金属キレーターの神経変性疾患治療効果についての病理学的研究 ・血管内皮細胞損傷が脳の鉄蓄積に及ぼす影響についての研究 ・加齢に伴う卵巣鉄代謝機構の変化と卵巣機能低下についての研究 ・発癌及び癌進展における鉄動態と金属キレーターの治療効果についての研究	
3 大学院への入学方法 弘前大学大学院の入学方法による。	
4 大学院修了後の進路 大学院修了者の多くは臨床医として活躍している。研究を続ける希望がある場合には，その時の状況にもよるが，本講座を含め大学の研究室での研究継続について相談に応じている。	

講座名 生体構造医科学

領 域	教 育 研 究 分 野
病 態 制 御 科 学	生 体 機 構 学
脳 神 経 科 学	神 経 内 分 泌 学
成 育 科 学	生 殖 発 生 遺 伝 学

1 研究室構成及び紹介

教授：下田 浩 講師：渡邊誠二，助 教：成田大一

(生体機構学)

◆リンパ管に関する分子形態学的研究

「リンパ管とは何か？」の答えを見つけるべく、組織化学、分子形態学的手法を用いて、リンパ管の発生・新生の解明からリンパ行性がん転移やリンパ浮腫の治療戦略の開発まで研究を行っている。研究対象は小型魚類からヒトまで多岐に亘る。併せて、血管・リンパ管系を含む様々な器官の三次元ヒト生体組織の開発と再生医療・創薬への応用ならびに新規医学研究モデルの確立を進めている。

◆消化管における微小循環系と神経・内分泌系に関する分子形態学的研究

講師：渡邊誠二

(生殖発生遺伝学)

◆ヒト胎児の流産の原因となる染色体異常生成のメカニズムを明らかにするため、ヒトおよびげっ歯類を材料に配偶子形成、受精、初期発生における染色体の動態の解明と染色体異常誘発因子の同定を試み、得られた成果を不妊治療へ応用することを目指す。

2 現在の研究テーマ

◆リンパ管と血管に関する分子形態学的研究

- ・リンパ管を中心とした微小循環系の機能構築と形成メカニズムの分子形態学的解析
- ・リンパ管の発生・新生メカニズムの分子形態学的研究
- ・がんリンパ管新生と転移機構の分子形態学的解析
- ・小型魚類を用いたリンパ管・血管形成とがん脈管新生・侵襲の生体イメージング解析
- ・血管・リンパ管系を含む三次元ヒト生体組織の開発と再生医療・創薬への応用ならびに新しい医学研究モデルの確立
- ・リンパ浮腫治療戦略としてのリンパ管新生ドラッグデリバリーシステムの開発
- ・微小循環系，神経・内分泌系を中心とした消化管の機能形態学

◆母体の加齢に伴って起こる卵子の加齢と染色体異常および発生異常のメカニズム

- ・細胞融合－核置換による加齢卵子の若返り
- ・卵子体外培養における染色体異常抑制法の開発
- ・ヒト精子調製法と染色体異常の関連性
- ・X精子Y精子の分離法の開発
- ・M期核による着床前診断法の改良

3 大学院への入学方法

学部卒業直後でも、卒業後研修後でも、一定期間内でもかまわない。弘前大学大学院の入学方法による。

4 大学院修了後の進路

大学院修了者の多くは臨床医として活躍している。研究を続ける希望がある場合には、その時の状況にもよるが、本講座を含め大学の研究室での研究継続について相談に応じている。

講座名 統合機能生理学

領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	シ ス テ ム 生 理 学
	神 経 ・ 脳 代 謝 制 御 学

1 研究室構成及び紹介

システム生理学（蔵田グループ・2名）ではさまざまな方法論を用い、脳機能の統合的解明を目指している。本グループでは随意運動における高次脳機能の解明に向け、先端的研究を行っており、いずれも、これまでの業績に対し国際的に高い評価を得ている。

神経・脳代謝制御学では山田准教授と長友助教、博士研究員、博士課程学生、修士課程学生と数名のテクニカルスタッフが、蛍光 L- グルコース fLG（国際特許取得）をがん診断に役立てようとする応用研究、ならびに脳代謝と脳回路に関する基礎研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

a) システム生理学（蔵田グループ）

運動制御における大きなテーマの一つが運動の概念生成から実行までの脳内ネットワーク機構の解明である。一例として、到達運動に代表されるように、同じ視覚目標に対し手と眼という全く別の効果器を協調して運動制御を可能にする高次機能を有している。このような到達運動は中枢内の視覚情報処理をもとに大脳皮質の運動関連領野と皮質下の大脳基底核、小脳、および脳幹の連関により達成されている。本研究グループではサルに運動課題を課し、課題遂行中のニューロン活動を記録・解析することにより、この機構を明らかにするとともに、木下准教授による最新の光遺伝学を用いた特異的神経回路の光操作法を導入し、これらを統合的に駆使して霊長類における脳機能の研究を行っている。

b) 神経・脳代謝制御学（山田グループ）

脳の唯一のエネルギー源であるブドウ糖 (D- グルコース) の輸送機構には未知の部分が多い。当グループでは D- グルコースの輸送を蛍光で可視化する方法の有効性を示し、脳など様々な臓器・細胞で利用されている。一方、D- グルコースを鏡に映した形である L- グルコースは天然にほとんど見られず、生物は利用しないとされてきた。面白いことに L- グルコースを蛍光で標識した誘導体をがん細胞に与えたところ、悪性度の高いがん細胞が可視化された。そこで本誘導体をがん診断に役立てることを目指し、公的機関、国内外企業と共に研究開発を進めている。平行して、神経細胞と共に脳の構成要素として重要なグリア細胞が主役として関わる脳の情報伝達様式の存在を証明しようとする研究を進めている。

3 大学院への入学方法

医学部卒業後直ちに入学が可能であるが、卒後臨床研修後の入学でも構わない。設備等は常時見学可能。いずれの研究グループにおいても、その研究の方向性、実際の研究体制を知ってもらう上で受験を検討する前に一度訪問される事を希望する。他学部出身者の入学も歓迎する。

4 大学院修了後の進路

研究への適性と意欲により、大学院卒業後、本講座の教員定員に空きがあれば助教に、あるいは本講座を含む国内、国外（米国、ドイツ、カナダ）の優れた研究グループなどへ博士研究員として推薦し、本人のキャリアアップを支援する。

講座名 ゲノム生化学

領 域	教 育 研 究 分 野
分 子 遺 伝 情 報 科 学	生 物 化 学
ゲ ノ ム 機 能 制 御 科 学	ゲ ノ ム 生 化 学

1 研究室構成及び紹介

藤井 穂高 山田 俊幸 清水 武史

1972年開講。1975年頃からグルタチオン関連酵素、 γ -グルタミルトランスぺプチダーゼ、グルタチオンS-トランスフェラーゼ(GST)について研究、1984年GSTの胎盤型分子種(GST-P)がラット肝がんで著しく発現し、腫瘍マーカーとなることを明らかにした。2006年弘前ヘアレラットの原因遺伝子を解明、2008年GST-P陰性の前がん病変が存在することを発見、遺伝子毒性発がん剤と非遺伝子毒性発がん剤による肝前がん病変を共通に検出できるマーカー、GST-A4を開発した。2012年、弘前ヘアレラットでのNK細胞受容体Ly49遺伝子の欠失、樹状細胞の機能低下、制御性T細胞の分化抑制を見出した。2013年、遺伝性に眼に異常を示すラットを樹立、レンズの遺伝子などに変異があることを見出し、弘前小眼球ラットと命名した。現在、これらの課題について、研究を継続している。2017年から主任教授として藤井が加わり、転写やエピジェネティック制御を始めとするゲノム機能発現調節機構の生化学的解析を中心とした研究も展開する予定である。

2 現在の研究テーマ

- (1) ゲノム機能の発現制御機構の解明
 - 1) ゲノム機能発現制御機構を解明するための新しい技術の開発
 - 2) 上記技術を利用したゲノム機能発現制御機構の解析(特に、リンパ球分化の分子機構解析)
- (2) がんの早期発見と予防に向けた研究
 - 1) 遺伝子多型と発がん感受性の差異：GST遺伝子多型ラットにおける肝発がん感受性の差異に係わる要因、ペルオキシソーム増殖剤による肝発がんにおける肝細胞と非実質細胞の相互作用の解明
- (3) がんの新しい治療法の開発に向けた研究
 - 1) 分化誘導：Phosphatidylethanolamine-binding proteinによる表皮細胞におけるRas-Raf-ERKの増殖シグナルの抑制と分化誘導、Rasの活性化が細胞増殖を抑制する場合の機序
 - 2) 転移の抑制：転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割
- (4) 弘前ヘアレラットの研究
 - 1) 弘前ヘアレラットにおける免疫異常と血球分化異常の分子機構
 - 2) 弘前ヘアレラットにおける乳腺早期退縮の分子機構：Phospholipase A2とヘアケラチンの役割の解析
- (5) 弘前小眼球ラットの研究
 - 1) 眼の発生と機能維持への変異遺伝子(クリスタリン遺伝子、Nufip2遺伝子)の関わり
 - 2) 弘前小眼球ラットのヒト眼疾患モデル動物としての確立

3 大学院への入学方法

理工学、薬学、農学系などの大学院修士課程の修了者、社会人の入学を歓迎する。医学部卒業者は、初期臨床研修を修了した上で大学院に入学する。

大学院生は教室の研究テーマをそれぞれ分担し、教員の指導と助言を受けながら実験を行い、研究を進める。教員、大学院生やその他の人々の英知と創造力を結集して学術的に意義のある、国際的評価の得られる質の高い研究を目指している。これらの研究活動を通して、大学院生の研究能力の向上を図り、研究者としての倫理観と良心を備えた優れた研究者の養成、人材の育成に努めている。

4 大学院修了後の進路

医師免許を持たない大学院修了者には、その適性に応じて海外留学など進路について相談する。医学部卒業者の多くは大学院修了後、臨床系教室に進み、そこで研究、診療活動を展開している。

講座名 病態薬理学	
領 域	教 育 研 究 分 野
循 環 病 態 科 学	循 環 薬 理 学
病 態 制 御 科 学	機 能 制 御 薬 理 学
	分 子 病 態 薬 理 学
1 研究室構成及び紹介 チャンネル・受容体，循環器，および異所性骨化の2つの研究グループで構成される。 チャンネル・受容体研究では，遺伝子発現やマウス疾患モデルを研究する。異所性骨化研究では遺伝学的解析とともに，病態に深く関与すると考えられる環境因子，特にメカニカルストレスに注目し，薬物治療法，予防法の確立につなげたいと考えている。大学院生は積極的に他大学との交流に参加する。 2 現在の研究テーマ 1) チャンネル・受容体の機能を調べるため，遺伝子クローン，遺伝子改変動物を用いた研究をしている。 2) 異所性骨化としては，厚生労働省指定難治疾患である脊柱靱帯骨化症（OPLL）のメカニズム解明を行っている。 3 大学院への入学方法 入学に関する特別な規定はない。各人の個性，意識を重視している。 4 大学院修了後の進路 臨床の現場においても研究を持続させてゆくことを期待する。基礎講座に所属しながら，臨床医を継続する人材育成も目指している。	

講座名 分子病態病理学

領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	腫 瘍 標 的 分 子 制 御 学
病 態 制 御 科 学	形 態 分 子 病 理 診 断 学
	病 態 病 理 学

1 研究室構成及び紹介

本講座の主要テーマ

「病態病理学」 組織，形態学的観点から病態の把握，病因を追求する。それとともに，遺伝子や蛋白発現などを解析し，形態との関連を探索。これらを基盤として病因解明とともに最新の治療指針を探索。

「診断病理学」 組織形態を多角的に観察するとともに，分子生物学的手法を応用し，最新情報に富む正確な病理診断を試みる。

2 現在の研究テーマ

消化器病理学：膵臓病の病理，消化管腫瘍の診断，分子病理，病態形成機構についてヒト組織を用いて研究する。

血液・網内系病理学：白血病，骨髓異形成症候群，悪性リンパ腫における分子異常を探索し，の病因，診断，治療指針を研究する。ヒト腫瘍組織，細胞株を用いた分子生物学的研究となる。

代謝・内分泌病理学：老化，糖尿病及びその合併症の成因，治療指針を探索する。遺伝子改変動物を用いて，分子標的を定め，ヒト病態に適切なモデルを確立する。また甲状腺，副腎疾患の病理，病態を追究する。

腫瘍病理学：消化器，内分泌臓器，呼吸器等における腫瘍疾患の病理診断学，腫瘍の治療指針決定のための分子診断を行う。

3 大学院への入学方法

一般臨床研修2年で臨床における病理の重要性を把握した後での，入学を薦める。研究者を強く志向する場合，大学院へのストレート入学を認める場合もある。

4 大学院修了後の進路

大学院修了までに原著論文を作成し，医学博士を取得した場合，さらなる研究を志向する場合2～3年間の海外での研究生活を推奨する。病理診断医を目標とする場合，大学病院及び関連病院での研修を行なう。また専門知識の習得を目的とし国内外の施設にて短期研修を奨める場合もある。

講座名 病理生命科学

領 域	教 育 研 究 分 野
分 子 遺 伝 情 報 科 学	生 態 情 報 病 態 学
腫 瘍 制 御 科 学	腫 瘍 病 理 学

1 研究室構成及び紹介

病理生命科学講座は、生体情報病態学分野（指導教員：教授1，助教1）と腫瘍病理学分野（指導教員：教授1，助教1）とに分かれ、双方の分野は全面的に協力・融合しながら教育研究活動を行っている。

【生体情報病態学分野】では、各疾患における時計遺伝子の機能を分子生物学的ならびに個体レベルで解析している。時計遺伝子とは、1日約24時間の周期を刻む概日リズム（生物時計）に関与する遺伝子であり、生体調節機構において重要な機能を担っている。

一方、【腫瘍病理学分野】では、ヒト腫瘍の増殖・進展・転移の機序解析、ならびに腫瘍細胞の特性解析のため、分子生物学および形態学的手法を用いて研究を行っている。これらの解析を通じて、腫瘍の病因解明や、病理診断精度の向上も目指す。

2 現在の研究テーマ

【生体情報病態学分野】

- (1) 概日リズム形成に関わる時計遺伝子の分子生物学的機能解析
- (2) 生体調節機構（低酸素応答など）に関わる時計遺伝子の分子生物学的機能解析
- (3) 血管新生に関わる時計遺伝子の分子生物学的機能解析
- (4) 癌の発生・増殖・分化に関わる時計遺伝子の病理学的機能解析
- (5) 癌化学療法応答に関わる時計遺伝子の病理学的機能解析

【腫瘍病理学分野】

- (1) 膵癌・胆道癌における増殖・分化・転移とその制御、ならびに病理診断
- (2) 食道癌・胃癌・大腸癌における増殖・分化とその制御、およびアポトーシス誘導
- (3) 前立腺・膀胱癌における増殖・分化とその制御、および治療効果判定
- (4) 乳癌における増殖・分化・転移とその制御、および治療効果判定
- (5) 骨・軟部腫瘍における増殖・分化・転移とその制御、ならびに病理診断

3 大学院への入学方法

医学部卒業者のみならず、生命科学の研究を志す若者を広く募集しています。医・歯学部など6年制大学卒業者は入学可能です。4年制大学卒業者は、2年間の修士課程修了後もしくは研究生在籍後に入学可能です。具体的な入学方法は、病理生命科学講座指導教員に直接お尋ねください。

4 大学院修了後の進路

大学院修了後も研究継続を希望する場合には、大学など各教育研究機関のスタッフ（教員・研究員）への道が開かれます。医師の場合は、病理専門医、細胞診専門医・指導医の資格を取得することが可能で、病理診断学を専門とする病理医として広く活躍できます。また、臨床医となった場合には、病理診断の素養を患者の病態解明に生かせるため、一段質の高い医療に携わることが可能です。

講座名 感染生体防御学

領 域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 化 学	免 疫 制 御 学
病 態 制 御 科 学	感 染 生 体 防 御 学

1 研究室構成及び紹介

当該研究室では、分子レベルでの感染症の pathogenesis を解析することによって、感染症
 征圧のためのワクチンの開発研究を行っている。同様な戦略で、移植の拒絶反応や炎症性疾患
 など非炎症性疾患における標的分子の同定と、その分子を標的とした炎症反応の制御の研究を
 行っている。並行して、肥満に注目した研究を行っている。肥満宿主の脂肪組織は炎症状態に
 あることが明らかとなっているが、肥満そのものと免疫システムとの関連は明らかではない。
 そこで、肥満と免疫、さらに腸内細菌叢と関連づけた研究を行っている。また、脂肪組織由来
 幹細胞の抗炎症作用を利用し、炎症性疾患の予防・治療を目指した研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

1. 細菌感染症に対する次世代ワクチンの開発
2. 細菌に対する免疫応答機序の分子的解析
3. 黄色ブドウ球菌スーパー抗原ファミリーのMRSA感染症における病態形成の役割の解明
4. 肥満の免疫学的解析
5. 腸内細菌叢による免疫系の調節
6. 脂肪由来幹細胞を用いた感染症・非感染性炎症疾患の制御
7. 天然由来成分の免疫系に対する作用の解析

3 大学院への入学方法

2年間の初期臨床研修を受けた後に進学するのが望ましい。医学科及び医学部以外の卒業生
 も歓迎する。研究に意欲のある人間であれば、そのバックグラウンドがどうであれ、積極的に
 受け入れている。

4 大学院修了後の進路

基礎医学研究者として、臨床医あるいは臨床医学研究者として活躍している。

講座名 社会医学

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	社 会 医 療 総 合 医 学
	ス ポ ー ツ 健 康 科 学

1 研究室構成及び紹介

本講座の教育，研究は中路重之特任教授と，倉内静香講師，相馬優樹助教がそれぞれの研究テーマにしたがいながら共同で担当する。現在，当講座には医学だけでなく体育学，体力学，生理学，栄養学，看護学，リハビリテーション医学等の各専門研究者が大学院生，研究生，共同研究者として在籍している。当講座ではこれらの各専門研究者がそれぞれの特性を活かしながら互いに協力し，一般住民の生活習慣病の発症要因や健康の維持・増進，あるいは競技スポーツ選手における健康管理やコンディショニングに関する問題や課題を社会医学や健康科学，スポーツ医学の観点から詳細に調査，解明すると共に，これらを適切に解決，指導する為の具体的な方策を考究，実行し，その有効性を検証する研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

(1) 健康科学分野

本分野では，食生活や運動習慣，睡眠などのライフスタイルと各種疾患，健康状況との関連を疫学手法を用い検討する。具体的には地域住民を対象とした疫学調査（代表例：「岩木健康増進プロジェクト」）を行い，これにより得られたデータをライフスタイル別，疾患別，年齢別，性別等に解析し，生活習慣病の発症要因とそのメカニズムを明らかにすると共に，その結果を元にした地域保健活動策を考案，実行し，その有効性を検証する。

(2) がんの疫学分野

本分野では，がんの発症要因とそのメカニズムを疫学手法により解明すると共に，これに関する予防対策を立案，実行し，その有効性を検証する。具体的には様々ながんに関する既存データを国内外で比較，検討すると共に，本講座が現在進めている青森県内のがん登録システムの普及活動を通じ得られるデータを分析し，本県のがんの発生状況やその原因の特性を明らかにする研究を行う。また，これにより得られた結果からがん予防対策を立案，実行し，その効果を検証する。

(3) 健康科学・スポーツ医学分野

本分野では，様々な環境下で実施される運動・スポーツ活動が生理学的機能，免疫機能に及ぼす影響を検討する。また，これらを検討する指標として血液生化学検査値，好中球活性酸素種産生能・貪食能・オプソニン化活性，リンパ球機能等を用いる。さらに，これにより得られたデータから実際のスポーツ現場における選手の健康管理及びコンディショニング策を立案，実行し，その有効性を検証する。現在，本分野の研究対象は日本体育大学柔道部・相撲部・ダンス部，コマツ女子柔道部，名城大学女子駅伝部，環太平洋大学柔道部等に所属する選手達である。

3 大学院への入学方法

各種機関・施設に所属しながら就学する社会人枠でも入学が可能であり，大いに歓迎する。また，医学研究分野以外の大学院修了者の受け入れも積極的に行っており，医学科卒業生同様，社会人枠入学も可能である。

4 大学院修了後の進路

これまでは卒業後臨床医として働く者が多い。しかし，一部ではあるが大学院での研究を発展・継続させ，さらなる研究の道を目指す者もいる。また，医学科卒業以外の大学院生の多くは，入学時既に他大学や各種研究機関に所属している者が多く，修了後は在学中に学び，得た専門的知識と技能をそれぞれが所属する機関で行う教育研究に活かしている。

講座名 法医学	
領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	法 医 学
1 研究室構成及び紹介 ・教員 1 名（教授） 2 現在の研究テーマ ・剖検診断における，解剖・検査所見の有用性評価に関する研究 ・臨床医学の検証としての法医剖検症例研究 ・法医剖検診断を目指した病理組織学的研究 ・臨床医学との広域コラボレーション 3 大学院への入学方法 ・入学方法および入学資格は大学院入学に関する規則に準ずる。 4 大学院修了後の進路 ・大学院在学中に死体解剖資格（厚生労働省）を取得したうえで， i）大学法医学講座教員 ii）監察医（常勤あるいは非常勤） 等の進路が挙げられる。 ・現在我が国では法医解剖を執刀できる医師が極めて少ないが，死因究明の重要性が認識されつつあり，解剖医が重要な役割を果たすことが強く期待されている。国内の大学における人員募集の機会を捉え，出来るだけ希望に副えるよう努力するつもりである。反面，大学でのポストが限られているという現実もあるので，個別の進路については大学院入学前あるいは在学中に十分な打ち合わせをしたい。 ・問い合わせ先：e-mail: shirushi@hirosaki-u.ac.jp	

講座名 消化器血液内科学

領 域	教 育 研 究 分 野
病 態 制 御 科 学	消 化 器 内 科 学
	血 液 内 科 学
	臨 床 免 疫 学

1 研究室構成及び紹介

消化管グループ：内視鏡診断，治療内視鏡の侵襲度評価，ピロリ菌感染と全身性疾患との関連および胃癌予防，内視鏡的逆行性腸管挿入法による腸内代謝産物及び腸内細菌叢の測定

肝胆膵グループ：肝線維化の機序，脂肪肝に対する疫学調査

心療内科グループ：機能性消化管障害の疫学，病態，治療

血液グループ：造血器悪性腫瘍の診断・層別化・治療，止血・血栓の機序と治療

膠原病・免疫グループ：炎症性腸疾患発症の免疫学的機序，リウマチ・膠原病の診断と治療

2 現在の研究テーマ

消化管グループ

- 内視鏡的胃・大腸粘膜下層剥離術の安全性と技術向上に関する研究
- 共焦点レーザー内視鏡による炎症性腸疾患の蛍光生体イメージング
- あおり藍エキスの腸炎抑制効果の研究
- 治療内視鏡の侵襲度の客観的評価（ストレス係数や好中球機能測定）
- ピロリ菌感染と生活習慣病・全身性疾患との関連についての研究
- 胃癌予防のためのピロリ菌検診と血清抗体・PG濃度の研究
- 内視鏡的逆行性腸管挿入法による腸内代謝産物及び腸内細菌叢の測定

肝胆膵グループ

- 肝線維化と肝発癌におけるヒアルロン酸シグナルの役割解明
- 一般住民における脂肪肝の発生・進展に関する研究

心療内科グループ

- 一般住民における機能性消化管障害の疫学，病態の研究
- 機能性消化管障害の心理的要因，難治例における治療の研究

血液グループ

- 造血器悪性腫瘍に対する化学療法の奏効率の向上についての研究
- 慢性骨髄性白血病慢性期に対する分子遺伝学的完全寛解時のチロシンキナーゼ阻害薬休薬に関する研究

膠原病・免疫グループ

- クローン病患者における再燃もしくは寛解維持予測因子の検討
- 潰瘍性大腸炎治療反応予測バイオマーカーの探索
- シクロスポリンによる腸管粘膜障害制御機序の解析
- ビタミンAを介した腸管オートファジー機能の解明と炎症性腸疾患治療としての可能性
- 実験腸炎モデルを用いた腸内細菌叢制御による腸炎抑制効果の検討
- 指定難病を対象に症例集積向上を目的とした疾患レジストリの構築(東北多施設共同研究)

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を2年間修了後に入学を許可している。

4 大学院修了後の進路

- 内科医として附属病院消化器内科・血液内科・膠原病内科または当科関連施設において臨床修練を行い，また，消化器血液内科学講座で研究を継続する。

講座名 循環器腎臓内科学	
領 域	教 育 研 究 分 野
循 環 病 態 科 学	循 環 病 態 内 科 学
病 態 制 御 科 学	腎 臓 病 態 内 科 学

1 研究室構成及び紹介

循環器グループ，腎臓グループからなる。循環器グループは富田准教授を中心に，冠動脈疾患，心不全，不整脈，高血圧等に関して，基礎的，臨床的研究を行っている。腎臓グループは中村准教授（地域医療学講座），島田講師を中心に腎疾患の成因，治療に関して基礎的，臨床的研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

A. 細胞・器官機能学，循環生理学
循環器グループ

- ・冠微小循環に関する臨床的並びに実験的研究
- ・カップリングファクター 6 の循環器疾患における役割に関する研究
- ・第 Xa 因子阻害に関する臨床的ならびに実験的研究

B. 器官病態情報学，循環病態科学
循環器グループ

- ・冠攣縮性狭心症の成因に関する研究
- ・急性冠症候群の先進的カテーテル治療に関する臨床的研究
- ・急性冠症候群の早期診断と予後に関する研究
- ・心不全の病態に関する臨床的並びに基礎的研究
- ・上室性並びに心室性頻拍症の成因に関する臨床的並びに基礎的研究
- ・心房細動カテーテル治療に関する臨床的研究
- ・突然死予防としてのデバイス治療に関する臨床的研究

C. 生体機能病態科学，腎臓・泌尿器病態科学
腎臓グループ

- ・糖尿病性腎症の治療に関する臨床的研究
- ・ヒト培養メサンギウム細胞の細胞外基質産生調節因子の検討
- ・ヒト培養近位尿細管細胞のケモカイン・細胞外基質産生に関する研究
- ・ANCA 関連血管炎に関する基礎的研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を 2 年修了し，さらに 2 年間の内科研修（1 年目は循環器，呼吸器，腎臓，脳卒中分野，2 年目は消化器，糖尿病などの内科領域および救急研修）を修了後，大学院への入学を勧めている。2 年目より社会人として入学することも可能である。なお，合計 4 年間の臨床研修を求める理由としては，2 年間の内科以外も含めた広い分野の卒後臨床研修に加え，循環器腎臓内科学領域における特殊診断および治療技術を 1 年間学び，習得すること，またさらに 1 年間でこれら以外の内科分野，救急医療を研修することにより，幅広く内科の基礎を身につけてもらうためである。この 4 年間の初期および後期研修により，大学院における研究遂行に対するモチベーションがより具体化するものと期待される。

4 大学院修了後の進路

学外施設で 1～2 年間勤務した後，海外または国内留学，あるいは大学スタッフとして勤務，学外その他施設での勤務，など，個人の希望をふまえて相談の上決定される。特に大学スタッフとして勤務する場合は，学会，研究会，研修会など国内外を問わず積極的に参加することが奨励されており，自己の研鑽を積む環境としては最高である。

講座名 呼吸器内科学

領 域	教 育 研 究 分 野
病 態 制 御 科 学	呼 吸 病 態 内 科 学

1 研究室構成及び紹介

田坂教授を中心に、肺癌、間質性肺炎、呼吸器感染症、気管支喘息、COPD 等に関して、基礎的あるいは臨床的な研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

A. 細胞・器官機能学，呼吸生理学

- ・誘発喀痰を用いた気管支喘息，COPD の気道炎症の研究
- ・呼気濃縮液の臨床的研究

B. 器官病態情報学，呼吸病態科学

- ・非結核性抗酸菌症の治療抵抗性の機序に関する研究
- ・肺癌の遺伝子多型と治療効果に関する研究
- ・肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果・副作用の予測因子に関する研究
- ・間質性肺炎合併肺癌における肺内メディエータの発現についての研究
- ・気腫合併肺線維症の呼吸機能と画像所見との関連についての研究
- ・ARDS の炎症収束および組織修復機構に関する研究
- ・呼吸音の可視化および医療スタッフ間での共有に関する研究
- ・喘息，COPD の気道炎症に関する研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修の1年目を修了していれば，呼吸器診療の経験のいかんを問わず大学院への入学は可能である。また内科認定医相当の臨床経験があれば，社会人として入学することも可能である。

4 大学院修了後の進路

学外施設で1～2年間勤務した後，海外または国内留学，あるいは大学スタッフとして勤務，学外その他施設での勤務，など，個人の希望をふまえて相談の上決定される。特に大学スタッフとして勤務する場合は，学会，研究会，研修会など国内外を問わず積極的に参加することが奨励されており，自己の研鑽を積む環境としては最高である。

講座名 内分泌代謝内科学

領 域	教 育 研 究 分 野
病 態 制 御 科 学	内 分 泌 代 謝 内 科 学

1 研究室構成及び紹介

教授 1 名，准教授 1 名，講師 3 名（病院講師を含む），助教 7 名（病院助教を含む），大学院生 6 名，医員 8 名

2 現在の研究テーマ

内分泌研究

- （1）内分泌疾患の遺伝子診断
- （2）機能性下垂体腫瘍の病態生理の研究と診断基準の作成・治療。
- （3）視床下部・下垂体・副腎系のストレス反応・摂食・免疫系に関連する研究糖尿病研究
- （1）インスリン分泌能の評価と治療への応用
- （2）糖尿病の合併症の発症，治療に関する研究
- （3）糖尿病の血管合併症・動脈硬化と脂質代謝異常症に関する研究
- （4）糖尿病の臨床及び疫学研究
- （5）膵内分泌・外分泌機能異常に関する研究
- （6）臨床栄養学に関する研究

疫学研究

- （1）糖尿病等生活習慣病の発症に関連する因子の検索
- （2）内分泌代謝ネットワークと生活習慣病との関連
- （3）生活習慣が及ぼすサルコペニア，骨粗相症等身体状況への影響分子疫学研究
- （1）糖尿病等生活習慣病の病因遺伝因子の検索
- （2）生活習慣との相互作用を考慮した生活習慣病危険遺伝因子の検索

3 大学院への入学方法

- （1）入学資格は，医師国家試験合格後，2 年間の卒後臨床研修修了者。
- （2）研究テーマについては，希望を尊重し，各研究グループに配属される。
- （3）学内，学外施設との共同研究も行っている。
- （4）研究成果を国内外の関連学会で発表後，速やかに医学雑誌に投稿する。

4 大学院修了後の進路

希望に応じて種々対応出来る

- （1）研究と臨床を平行して行い，リサーチマインドを持った臨床医（physician scientist）を目指す。
- （2）研究に集中する。その際は，国内外への留学も勧める。
- （3）臨床に集中する。当科および関連病院でトレーニングを受け，内科専門医を取得し，さらに内分泌代謝科専門医，糖尿病専門医，などの専門医の資格を取得する。

講座名 腫瘍内科学

領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	腫 瘍 内 科 学

1 研究室構成及び紹介

悪性疾患の治療を、臓器別診療の枠から解放し、複数臓器の「がん薬物療法」を研究・実践する講座である。研究内容は、新規薬物開発や治療法開発といった臨床研究を主としている。また、抗がん薬治療に付随する支持療法開発及び薬物治療を受ける患者評価の開発に取り組んでいる。また、薬物療法を受けるがん患者に対して全人的医療を提供できるための教育や社会活動にも力を入れている。現在の教室員構成は、教授1名、講師1名、大学院生1名、医員1名から成っている。佐藤教授が固形癌を担当、高畑講師が悪性リンパ腫を主に担当している。今後の高齢社会においてニーズが高まるばかりの領域のため、今後の医療を支える多数の若い方々の参加を希望している。

2 現在の研究テーマ

(1) 臨床試験

- ・進行食道癌に対する化学療法臨床試験
- ・進行胃癌に対する化学療法臨床試験
- ・進行膵臓癌に対する化学療法臨床試験
- ・進行大腸癌に対する化学療法臨床試験

(2) 介入調査研究

- ・患者苦痛度評価と安全性評価検討
- ・薬物療法を受ける患者の QOL 調査研究

(3) 悪性リンパ腫患者における遺伝子多型と臨床病理学的因子との関連

3 大学院の入学方法

- ・2年間の卒後臨床研修終了後に大学院の入学を許可している。
- ・学内、基礎分野との共同研究も行なっている。

4 大学院修了後の進路

- (1) がん治療認定医、がん薬物療法専門医取得へ向けた臨床研修を、大学病院及び関連施設で引き続き行い、認定医・専門医を取得する。
- (2) 大学で引き続き勤務し、サブスペシャリティの臨床研修を行うとともに、研究を継続する。
- (3) 大学と連携して、地域関連施設、各診療機関において臨床修練を行う。
- (4) 希望に応じて、国内外に留学して研究を行う。

講座名 神経精神医学

領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	精 神 ・ 神 経 分 子 科 学
	シ ス テ ム 認 知 学
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	精 神 ・ 発 達 医 療 学

1 研究室構成及び紹介

児童・思春期精神医学研究の分野では、児童・思春期の患者が急増しており、これらの症例の詳細な検討を重ねるとともに、自閉症、注意欠如・多動性障害、思春期統合失調症、幼児期における子どもの問題や障害、児童思春期における行動障害、子どものうつ病の臨床研究を進めています。

臨床神経精神薬理学的研究の分野では、向精神薬全般における薬物代謝、薬物相互作用に関する研究を精力的に行っており、最近では、薬理遺伝学的手法を駆使して国際的にも質の高い臨床研究成果を挙げています。さらに薬物療法に関する疫学調査や神経心理などの研究も展開しています。

2 現在の研究テーマ

児童・思春期グループ

- ・5歳児発達健診による発達障害の鑑別
- ・発達障害（自閉症、注意欠如・多動性障害）の臨床と転帰に関する研究
- ・発達障害の臨床遺伝学的な研究
- ・学校コホートによる子どものこころの問題に関する研究

臨床神経精神薬理グループ

- ・向精神薬の薬物動態学・薬理遺伝学的研究及び薬物相互作用について
- ・統合失調症、うつ病の病態・症候学・治療反応性・経過に及ぼす遺伝学的因子の影響の検討
- ・人格特性と神経伝達物質関連遺伝子との関係について
- ・薬物治療における副作用の疫学的研究
- ・統合失調症、うつ病の神経心理検査

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修、第1年目の秋冬に入学を申請し、1年間の研修修了した後に大学院への入学が許可されます。

4 大学院修了後の進路

基本的には大学において精神科医として研修し、関連病院において、さらに臨床研修を行うこととなりますが、積極的に海外の研究機関等への留学を推奨しています。また、精神科医には重要な精神保健指定医や精神神経医学会認定精神科専門医の取得へ向けて、丁寧な指導を行っています。

講座名 小児科学			
領 域		教 育 研 究 分 野	
成 育 科 学		小 児 病 態 学	
1 研究室構成及び紹介 小児科には現在4つ研究グループ（血液・循環器・腎臓・神経）があり、各々活発な診療・研究を展開し世界に発信している。 1. 血液腫瘍グループ：小児血液疾患や固形腫瘍の診断・治療・研究を担当。 2. 循環器グループ：小児心疾患の診断・治療・研究を担当。 3. 腎臓グループ：小児腎・免疫・アレルギー疾患の診断・治療・研究を担当。 4. 神経グループ：小児神経疾患と筋疾患の診断・治療・研究を担当。			
2 現在の研究テーマ 1. 小児疾患（血液・循環器・腎臓・神経疾患）の病因・病態・治療法に関する研究を行う。 特に、分子細胞生物学的手法を用いた研究を進める。 （1）Down 症候群における白血病発症の分子機構の解明。 （2）先天性赤芽球癆（Diamond-Blackfan Anemia）の分子機構の解明。 （3）先天性心疾患などの循環器疾患の分子機構に関する研究。 （4）ネフローゼ症候群など小児腎疾患の分子機構の解明。 （5）小児てんかんの分子機構の解明。 2. 血球分化に重要な役割をはたす転写因子の研究によって、正常の造血機構を明らかにし、その破綻によって発生する白血病の病因を解明する。 （1）赤血球・巨核球系転写因子 GATA1と小児白血病に関する研究。 （2）赤血球・巨核球系転写因子 NF-E2群による血球分化の分子機構の解明。			
3 大学院への入学方法 2年間の卒後臨床研修を修了後に大学院への入学を許可している。また、社会人入学を積極的に勧めている。			
4 大学院修了後の進路 基本的には小児科医として弘前大学小児科および関連病院で臨床研修を行う。特に大学においては各々の研究グループに属しながら専門医になるための臨床研修と研究を行う。また、さらに研究者を志すものに対しては国内外の最先端の研究施設での留学を勧めている。			

講座名 胸部心臓血管外科学

領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	胸 部 外 科 学
循 環 病 態 科 学	心 臓 血 管 外 科 学
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学	再 生 再 建 理 論 外 科 学

1 研究室構成及び紹介

教室の研究テーマとして、「ヒトに優しい外科治療の開発」を掲げる。このために外科侵襲の研究と侵襲を少なくするための治療法の実現を行っている。研究グループは2つのグループから構成されている。

心臓血管外科研究グループ：成人心臓外科（虚血性心疾患，弁膜症），大動脈瘤の外科，先天性心疾患の外科，末梢血管の外科治療の開発を研究している。特に脳と心臓，血液凝固系，血流の可視化による解析，interventional radiology など，学際的な分野での研究を行っている。研究は本学理工学部と共同研究を行っているとともに，ペンシルバニア大学での大型動物を用いた臨床に直結する研究も行っている。

胸部・一般外科研究グループ：肺・縦隔などの呼吸器疾患および胸部一般外科の治療の開発，研究を行っている。とくに悪性腫瘍の治療成績に関わる予後因子の解析，癌化学免疫療法などの補助療法，低侵襲的な内視鏡下手術の開発などについて研究している。さらに，両研究グループが協力して，外科における再生療法の応用，器官再建の理論と人工臓器について研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

心臓血管外科学

- 1) 低侵襲手術法開発：血管内治療の発展と応用の拡大に関する実験的研究及び臨床研究
- 2) 安全な体外循環法の実現にかかわる研究：大動脈の送血及び脱血に関連した理論的研究
- 3) 心不全の病態解明と外科的介入にかかわる研究
- 4) 手術後の凝固系変動にかかわる研究
- 5) 脈管系，心臓弁の石灰化の機序の研究：培養間質細胞を用いた研究

胸部外科学

- 1) 肺癌手術患者における切除後予後因子の分子生物学的研究
- 2) 胸部手術の手術侵襲が細胞免疫系に与える影響の研究
- 3) 気道内の微細気流分布の流体力学的解析

再生再建理論外科学

- 1) 小児用人工心臓の開発
- 2) 胸壁の人工材料による再建手術と臨床応用の開発
- 3) 人工筋肉を用いた新しい補助人工心臓の開発
- 4) 大動脈内の血流の研究
- 5) 弁膜症における大動脈のリモデリング機序の研究

3 大学院への入学方法

臨床に密着した研究を行なうため，できれば最低1年間の外科研修を終了していることが望ましい。研究テーマは自ら設定し，問題意識を持って外科的な治療における課題を解決する姿勢のある大学院生を歓迎する。医学部卒業者でなくとも，外科医療と境界領域，特に医工学関連の研究開発に興味を有するものも歓迎する。

4 大学院修了後の進路

弘前大学およびその関連病院における臨床研修を行い，外科，心臓血管外科，呼吸器外科，消化器外科などの指導医を取得することが可能である。また，研究開発の継続を希望する場合には，大学あるいは研究施設での研究職を紹介する事も考慮する。

講座名 消化器外科学

領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	消 化 器 外 科 学
	乳 腺 ・ 甲 状 腺 外 科 学
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学	消 化 器 移 植 再 建 医 学

1 研究室構成及び紹介

当教室は4つの診療グループと4つの研究グループから構成されており、また小児外科学と相互に研修を行っている。

- ①上部消化管グループ
- ②下部消化管グループ
- ③肝胆膵・移植グループ
- ④乳腺・甲状腺グループ

2 現在の研究テーマ

袴田健一教授の指導下に、グループ単位の研究が行われている。

- 1 肝胆膵・移植グループ（指導：石戸圭之輔准教授，工藤大輔講師，木村憲央講師，脇屋太一助教）
 - 1.1 肝癌発がんの遺伝子機構に関する研究
 - 1.2 膵胆道癌手術補助療法に関する研究
 - 1.3 3D画像解析による肝膵胆道癌手術の適正化に関する研究
 - 1.4 ロボット支援手術の膵手術への応用
 - 1.5 移植免疫に関する研究
 - 1.6 肝再生の遺伝子制御に関する研究
 - 1.7 大腸癌肝転移に対する集学的治療法の開発
- 2 大腸腫瘍病理グループ（指導：坂本講師，諸橋一講師，三浦卓也助教）
 - 2.1 大腸癌の病理組織学的特性と予後に関する研究
 - 2.2 肛門括約筋機能温存に関する研究
 - 2.3 炎症性腸疾患手術の適正化に関する研究
 - 2.4 腹腔鏡・ロボット支援低侵襲手術の適応拡大に関する研究
- 3 乳癌グループ（指導：西助教，西村助教）
 - 3.1 乳癌手術の縮小化に関する研究
 - 3.2 進行・再発乳癌に対する化学療法の適正化に関する研究
 - 3.3 進行・再発甲状腺癌に対する集学的治療法の開発
- 4 胃食道癌グループ（指導：和嶋准教授，室谷助教）
 - 4.1 食道癌，胃癌の抗癌剤感受性に関する研究
 - 4.2 鏡視下手術の適応拡大に関する研究
 - 4.3 ロボット支援消化器外科手術の技術開発

3 大学院への入学方法

2年間の臨床研修を終えた後に入学を許可している。

4 大学院修了後の進路

弘前大学消化器・乳腺・甲状腺外科及び関連施設で臨床研修を行い、最終的には消化器外科専門医または乳腺専門医の取得を目標とする。また研究面でのさらなる研修を希望するものは国内外の留学の場も多数用意できる。

主な研修施設：市立函館病院 青森県立中央病院 国立弘前病院 むつ総合病院 八戸市立市民病院 三沢市立病院 青森市民病院 市立秋田総合病院 大館市立総合病院 山形県立中央病院 山形県立河北病院
 など青森県，秋田県，山形県，北海道を中心に多数

講座名 整形外科学

領 域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 医 学	運 動 機 能 病 態 修 復 学
	脊 椎 脊 髄 病 態 修 復 学

1 研究室構成及び紹介

骨・関節・靱帯など運動器疾患及び脊椎・脊髄疾患の病態の解明及び質の高い治療の開発のため研究を行っている。

脊椎外科グループ：脊椎由来の上下肢のしびれ、痛み及び運動障害の治療、側弯症など脊柱変形の治療、脊髄空洞症・脊髄腫瘍など脊髄疾患、脊髄損傷、脊柱靱帯骨化症

手の外科グループ：上肢・下肢の先天異常に対する手術、四肢形成不全に対する骨延長、上肢の外傷・変性疾患、再建外科

関節外科・RA グループ：変形性股関節症・変形性膝関節症・RA・大腿骨頭壊死症・小児股関節疾患

スポーツ医学グループ：スポーツ選手の障害・外傷の予防と治療。膝・肩・肘・足関節疾患

骨・軟部腫瘍グループ：良性・悪性の骨軟部腫瘍の診断および治療の確立と進歩

2 現在の研究テーマ

脊椎外科グループ：脊椎由来の上下肢のしびれ痛み及び運動障害の病態解明、側弯症など脊柱変形の安全で低侵襲な治療法の開発(3Dモデルを用いた正確な手術シミュレーションの応用)

側弯症など脊柱変形症例に対する運動機能

評価、脊髄空洞症・脊髄腫瘍など脊髄疾患の病態解明・治療法の開発

脊髄損傷後神経障害性疼痛のメカニズムの解析

脊髄損傷に対する間葉系幹細胞移植療法の試み

脊柱靱帯骨化症の病態解明と治療法の開発

骨癒合や感染予防に有用な脊椎インストゥルメントの開発

骨粗鬆性脊椎圧迫骨折の疫学と予防

手の外科グループ：ロボット支援手術のマイクロサージャリーへの応用に関する基礎研究

最小侵襲手術手技の開発、手指変形性関節症と上肢機能に関する研究

Dupuytren 拘縮および手指変形性関節症の疫学調査

投球動作と上肢障害に関する因子の解明

関節外科・RA グループ：変形性関節症の進行予防に関する基礎的・臨床的研究

変形性股関節症の成因・進行に関する疫学調査

関節リウマチの関節破壊に関する基礎的・臨床的研究

大腿骨頭壊死の新たな治療方法の開発

人工関節置換術の生体力学的研究

スポーツ医学グループ：膝靱帯再建に対する生体力学的および分子生物学的研究

軟骨再生に対する生体力学的および分子生物学的研究

腱障害に対する分子生物学的研究

投球障害の生体力学的研究

膝前十字靱帯損傷予防プログラムの作成

膝蓋骨不安定症に対する電気生理学的、生体力学的側面から見た評価方法の確立

骨・軟部腫瘍グループ：骨巨細胞腫の細胞起源の解明、骨巨細胞腫の予後因子に関する研究

肉腫肺転移を抑制しうる薬剤に関する実験的研究

糖代謝に基づいた悪性骨・軟部腫瘍の新規診断・治療法の開発

細胞外マトリックスの制御を応用した骨・軟部腫瘍新規治療法の開発

3 大学院への入学方法

卒後1または2年後に入学を許可

4 大学院修了後の進路

弘前大学整形外科及び関連病院にて研修を行う。卒後7年目に受験する整形外科専門医試験に向けて、十分な臨床修練が可能な研修システムを指導している。その後、海外での研修、各研究グループでのスタッフとしてのさらなる修練を推奨している。

講座名 リハビリテーション医学

領 域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 医 学

1 研究室構成及び紹介

リハビリテーションに関連する幅広い領域（脳血管障害・外傷性脳損傷、脊椎脊髄疾患、運動器疾患、神経筋疾患、内部障害、がん、廃用症候群など）における障害の病態、リハビリテーション治療の有効性について科学的な分析を行い、より良いリハビリテーション医療が提供できるよう研究を行っています。

2 現在の研究テーマ

- ①脳血管障害、脊椎脊髄疾患：ロボットリハビリテーションによる治療メカニズムの解明、有効性の分析
- ②運動器疾患：運動療法によるロコモティブシンドロームの予防
- ③スポーツ傷害：三次元動作解析による傷害発生メカニズムの解明と予防法の開発
- ④神経筋疾患：ニューロリハビリテーションの有効性

3 大学院への入学方法

卒後1年または2年後に入学を許可

4 大学院修了後の進路

弘前大学医学部附属病院リハビリテーション科および青森県リハビリテーション科専門研修プログラム（平成30年度より開始予定）の連携病院にて研修を行う。上記施設で専攻医として3年間の研修を行い、所定の研修プログラムを完了した場合には、リハビリテーション科専門医試験の受験が可能である。専門医取得後は弘前大学医学部附属病院リハビリテーション科および県内中核病院に勤務し診療に当たる。

講座名 皮膚科学

領 域	教 育 研 究 分 野
感 覚 統 合 科 学	皮 膚 科 学

1 研究室構成及び紹介

1. 遺伝子診断栄養障害型先天性表皮水疱症，腸性肢端皮膚炎，骨髄性プロトポルフィリン症などの遺伝子診断を行い，国内他施設からの検索依頼も広く受け入れている。
2. 表皮分化のメカニズムの解析ヒト表皮角化細胞において，Raf キナーゼ活性を抑制する PEBP という分子が最終分化である角化を誘導することを見出し，さらに詳細なメカニズムを解析中である。
3. アトピー性皮膚炎の核酸治療 NF- κ B デコイの有効性を検討している。
4. 光老化の発現機序「シワ」形成に関する分子生物学的解析と分子生物学的モデルの構築を行っている。

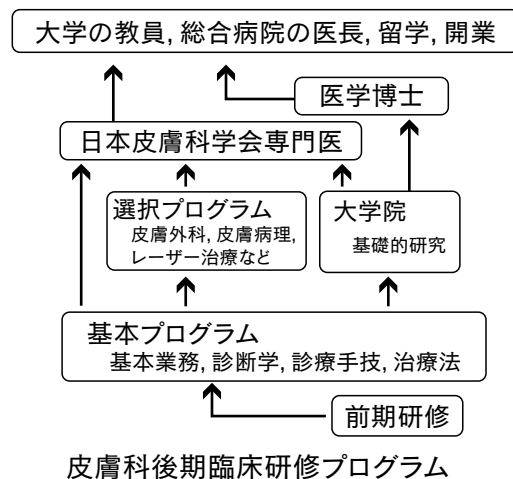
2 現在の研究テーマ

1. 遺伝性皮膚疾患の病態解明と新規治療法の開発
2. 正常皮膚メラノサイトおよびメラノーマ細胞のシグナル伝達について
3. TNF- α と IFN- γ を培養ヒトケラチノサイトに投与した際の Retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) の発現に関する研究
4. RIG-I の表皮における発現誘導と機能の解析
5. Raf キナーゼ抑制蛋白 (RKIP) が，皮膚有棘細胞癌の分化・増殖に及ぼす影響

3 大学院への入学方法

研修指定病院での2年間の研修を修了したのち，大学院への入学を許可している。なお，弘前大学医学部附属病院にての研修を行う場合は，2年間のうち半年を皮膚科臨床研修にあてることができる。

4 大学院修了後の進路



講座名 泌尿器科学

領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	泌 尿 器 腫 瘍 学
機 能 再 建 ・ 再 生 医 学	泌 尿 器 移 植 再 生 医 学

1 研究室構成及び紹介

腎・尿路・男性生殖器系の研究領域を対象に糖鎖生物学・腫瘍生物学・病理学・腫瘍免疫学・移植免疫学・分子生物学などのテクノロジーを駆使して、結果を臨床現場に還元することを念頭に置いた研究を行っている。テーマごとに数名のスタッフでプロジェクトチームを構成している。実際の研究は、先進移植再生学講座のスタッフおよび鷹揚郷腎研究所のスタッフとの共同研究という形で行われる。総勢4名の PhD スタッフおよび9名の MD, PhD スタッフが man-to-man で大学院生の指導に当たる。

2 現在の研究テーマ

A. 腫瘍

- ・癌の浸潤・転移における糖鎖の役割
- ・膀胱癌に対する BCG 生菌及び菌体成分の作用機序の解析
- ・泌尿器癌の予後に関連する癌遺伝子の検討
- ・癌の浸潤と転移における自然免疫系（NK細胞，NK T細胞）の役割
- ・前立腺癌の診断マーカーおよび悪性度マーカーの研究

B. 移植

- ・腎移植後急性拒絶反応時のNO産生系の解明
- ・糖鎖修飾と拒絶の研究
- ・移植免疫における自然免疫系（NK細胞，NK T細胞）の役割
- ・ABO血液型不適合腎移植の研究

C. 代用膀胱

- ・人工膀胱の開発及び臨床応用

D. 感染症

- ・自然免疫系活性化による尿路感染症治療に関する研究

E. アンドロロジー

- ・男性更年期障害、勃起障害と動脈硬化に関する研究

3 大学院への入学方法

原則として初期臨床研修（2年間）の後に大学院に入学する。泌尿器科専門医資格と学位が同時に無理なく取得できるカリキュラムを構築している。

4 大学院修了後の進路

臨床医として当教室および関連施設で活躍する場が待っている。特定の診療技術習得を目的に国内外の病院での研修も可能である。仙台社会保険病院での腎腫瘍・腹腔鏡トレーニングプログラム、宮城県立こども病院での小児泌尿器科研修プログラム、宮城県立がんセンターでの泌尿器癌研修プログラム、東北労災病院での神経泌尿器科研修、山形県立中央病院、独協医大越谷病院、埼玉医大国際医療センターなどでの研修など。また、研究をさらに発展させたい場合は、学内の教室や当教室と共同研究を行っている施設（北海道大学、秋田大学、東北大学、東北薬科大学、大阪大学、京都大学、琉球大学、The Sanford Burnham Institute）および Cleveland Clinic, Mayo Clinic, University of California San Francisco(UCSF) などへの留学が可能である。

講座名 眼科学	
領 域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学	視 覚 再 建 医 学
感 覚 統 合 科 学	眼 科 学
1 研究室構成及び紹介 教授 中澤 満 准教授 鈴木幸彦 講師 目時友美 助教 吹田淑子, 工藤孝志	
2 現在の研究テーマ 〈感覚器再建医学〉 緑内障の新しい手術法の開発 網膜循環障害の血管内治療法の開発 角膜移植の新しい手術方法の開発 斜視手術の新しい手術方法の開発 〈眼科学〉 遺伝性網膜変性症の原因遺伝子検索 遺伝性網膜変性症の分子病態の解析と薬物治療の可能性 緑内障の分子病態と薬物治療 網膜循環障害の病態と血管内手術の開発	
3 大学院への入学方法 臨床研修修了後から入学可能。したがって医師免許取得後の臨床研修で2年次研修以降の者は受験資格を有する。弘前大学大学院医学研究科の大学院入学試験の合格することにより入学可能です。	
4 大学院修了後の進路 本人の希望により以下の進路が考えられる。 1) 眼科研究を進めながら, 眼科の臨床研修も進めるコース。 2) 外国留学により自分の研究テーマをさらに発展させるコース。 3) 附属病院および関連病院での眼科実地臨床研修に専念し, 眼科専門医を目指すコース。	

講座名 耳鼻咽喉科学

領 域	教 育 研 究 分 野
感 覚 統 合 科 学	耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科 学

1 研究室構成及び紹介

感覚器とアレルギーに関して基礎研究から疫学研究まで幅広く行っている。
研究の内容によりいくつかのテーマに分かれて研究を進めている。

2 現在の研究テーマ

- ・好酸球性中耳炎の多角的研究
 - ①好酸球性中耳炎基礎的研究：モデル動物を作成し、中耳病変の病態や中耳炎に起因する難聴の病態などについて基礎的な研究を行う。
 - ②好酸球性中耳炎の臨床研究：疫学調査や病態に関する臨床的な研究を行う。
- ・聴覚・平衡覚の臨床研究
 - 一般地域住民を対象とした聴覚・平衡覚に関する多角的な疫学調査を行う。
- ・鼻科学の臨床研究
 - ①一般地域住民を対象として感作率調査など多角的な疫学調査を行う。
 - ②スギ花粉飛散の飛散予測や飛散調査、治療効果など臨床研究を行う。
 - ③一般地域住民を対象として嗅覚障害の疫学調査などを行う。

3 大学院への入学方法

2年間の卒後臨床研修を修了後に大学院への入学を許可している。耳鼻咽喉科専門医は卒後6年間の研修で受験資格が得られる。

臨床系大学院も研修期間に含まれるが、臨床系大学院に所属し基礎系講座で実験研究のみを行った場合にはこれを研修期間とは認められない。

4 大学院修了後の進路

本附属病院と関連病院において専門研修を行う。2年間臨床研修と4年間の専門研修を修了すれば、耳鼻咽喉科専門医の受験資格が得られる。試験の合格率は概ね70%台である。また、国内外の施設への留学も可能である。

講座名 放射線科学	
領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	放 射 線 腫 瘍 学
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	放 射 線 診 断 学

1 研究室構成及び紹介

放射線科学講座は放射線診断学分野と放射線腫瘍（治療学）学分野とに分かれており，最初の2年間はすべてをローテートするが，3年目よりどちらかに固定し臨床ないし基礎研究に進む。弘前大学放射線科はここ3年でCT，MRI等の診断機器，放射線治療装置がすべて更新され最高水準の放射線科学修練ができるようになりました。

2 現在の研究テーマ

放射線腫瘍学

（1）臨床放射線腫瘍学

癌放射線治療に関する総合的な研究。

- 抗がん剤や放射線効果を修飾する薬剤との併用治療法に関する研究
- ダイナミックマルチリーフコリメータを用いた追跡照射法の開発
- 回転型強度変調照射法を用いた放射線治療に関する研究
- 低酸素細胞等予後予測因子の臨床的解析

（2）放射線生物学

遺伝子，細胞，組織を含めた総合的な放射線生物学を目指す。

- 癌放射線治療の基礎的研究
- 放射線による正常組織障害の分子生物学的解明
- HIF-1阻害剤を併用した放射線治療の基礎的研究

放射線診断学

（1）画像診断学・画像情報

各種診断機器をもとに，画像診断法ならびにインターベンション治療に関する研究を行う。臨床医学，基礎医学，医療工学などを集めた総合的な分野である。

- 病理を含めた画像診断の研究と臨床的意義
- 新しい診断技術の開発
- 三次元から四次元に至る診断法の研究と臨床的意義
- インターベンション治療の最適化

3 大学院への入学方法

医師国家試験合格者は初期臨床研修を修了したものが受験する。他学部出身者は別途相談に応じる。

4 大学院修了後の進路

臨床を希望する者は，放射線医学の臨床を修練するために放射線科専門医を取得，弘前大学医学部附属病院放射線科ならびに関連病院での臨床修練を行う。

基礎研究者を希望する者は更なる研究を推進すべく研究者としての地位と研究費の確保を目指す。

講座名 産科婦人科学

領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	婦 人 科 腫 瘍 学
成 育 科 学	生 殖 機 能 病 態 学
	周 産 期 医 学

1 研究室構成及び紹介

産科婦人科学は周産期医学，腫瘍学，生殖医学，女性のヘルスケアの4つの大きな柱からなる。本講座でもこれらの研究分野を漏れなくカバーしそれぞれが独自の研究テーマをもって基礎研究，臨床研究に従事しているが，特記すべきは，女性医学の立場から常に女性の一生を通して健康管理の視点に立ってこれらの研究を進めていることである。

2 現在の研究テーマ

周産期医学

- 1) 切迫早産の診断・予防・治療法に関する基礎的臨床的研究
- 2) 妊娠糖尿病の母児に及ぼす長期予後に関する研究
- 3) 妊娠高血圧症候群のリスク因子の解明と長期予後に関する研究

婦人科腫瘍学

- 1) 卵巣癌腹膜播種病巣に対する Carbonyl reductase の遺伝子治療への応用
- 2) 卵巣癌腹膜播種病巣に対する大網の役割
- 3) タイプI子宮内膜癌の癌化の解明
- 4) パクリタキセル抵抗性卵巣癌に対する Tau の関与
- 5) 子宮体癌の再発時期，再発場所から最適なチェックアップ方法を考案する

生殖医学

- 1) 妊娠の成立・維持における免疫担当細胞の意義に関する研究
- 2) 加齢による卵細胞変化の解明とその対処法に関する研究
- 3) 多嚢胞性卵巣症候群の病因の解明と新しい治療法の開発
- 4) 胚発生における胚呼吸機能測定の意味と新しい胚選別法に関する研究
- 5) 子宮内膜症の発症と伸展における免疫担当細胞の意義に関する研究

女性ヘルスケア

- 1) 更年期障害の至適治療法（HRT，漢方薬，抗うつ剤，サプリメント）の研究
- 2) 妊娠授乳後骨粗鬆症発症のリスク因子の研究
- 3) 婦人科悪性腫瘍術後（外科的去勢後）の女性のヘルスケアの研究
- 4) 月経随伴症状（月経困難症，過多月経，月経前症候群）と女性の QOL の研究
- 5) エストロゲンの循環器系への影響についての研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修修了後，所定の試験を受けて合格すれば入学可

4 大学院修了後の進路

教育機関のスタッフ，国内外施設得への留学，医師として関連病院での勤務，学内共同研究としての学内研究員など

講座名 麻酔科学	
領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	麻 酔 ・ 疼 痛 制 御 医 学
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	集 中 治 療 医 学

1 研究室構成及び紹介

麻酔科学講座では麻酔・疼痛制御, 集中治療, に関わる様々なことを研究対象としているため, 研究内容は下に記すように多岐にわたり, それぞれの分野について多くの業績をあげている。このため, 教育研究分野は, 脳神経科学領域の麻酔・疼痛制御医学と総合医療・健康科学分野の集中治療医学にまたがる。例えば, 麻酔・疼痛制御医学関係では Anesthesiology, British Journal of Anaesthesia, Anesthesia and Analgesia, Anaesthesia など, また集中治療医学についても Critical Care Medicine, Intensive Care Medicine などこれらの分野におけるインパクトファクター上位の雑誌にも掲載されている。さらに American Journal of Physiology, British Journal of Pharmacology, Neuroscience, Brain Research 等の基礎系の国際科学雑誌にも掲載されている。また, 米国テキサス大学, 英国レスター大学, イタリア・フェラーラ大学, フランス・ニース大学, ドイツ・ハノーバー医科大学, 中国ハルビン医科大学などの研究機関との国際共同研究も行ってきた。これらの大学以外でも, スコットランド・グラスゴー大学やアバディーン大学, ドイツ・フライブルグ大学, 韓国プサン大学, 米国ワシントン大学, 中国北京大学及び中国人民解放军総合病院などと教育・臨床・研究に関連して国際交流を継続している。さらに, 各種国際科学雑誌から年に1～3編程度の Review article の執筆依頼があり, これらは当講座の研究レベルの高さを物語っていると言えよう。

2 現在の研究テーマ

臨床薬理研究：臨床薬理学を基本とした全静脈麻酔の臨床的研究など。

内分泌研究：各種ストレスホルモンと麻酔薬の相互作用についての研究など。

麻酔メカニズム研究：ノルアドレナリン神経からみた麻酔メカニズムの研究など。

体液代謝研究：グルコース初期分布容量を応用した体液の研究など。

循環関連研究：経食道心エコーを用いた集中治療管理の研究など。

呼吸関連：各種麻酔薬と気道の形態・機能に関する研究など。

免疫関連研究：各種麻酔薬の炎症や癌制御に及ぼす影響に関する研究など。

疼痛制御研究：唾液中バイオマーカーと疼痛ストレスの関係に関する研究など。

認知機能研究：術後や敗血症性の譫妄並びに認知機能低下の発症機序の解明など。

3 大学院への入学方法

当大学院の出願資格に合った者で, 試験に合格した者は当コースへの入学を許可している。

4 大学院修了後の進路

基本的には麻酔科医として弘前大学医学部附属病院麻酔科及び関連病院での専攻医研修が待っている。同時に海外留学を推奨している。実際に当講座では, 助教以上の教員の5割が1年以上の海外留学を経験している。まず麻酔科標榜医(国家認定), 麻酔科認定医を取得した後に, 麻酔科専門医を取得し, さらにその後に麻酔科指導医, 集中治療専門医, ペインクリニック専門医や緩和医療専門医などの取得(1つ以上)を目指し, これら専門領域の研修を行なう。

講座名 脳神経外科学	
領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	脳 血 管 障 害 学
	機 能 的 脳 神 経 外 科 学
腫 瘍 制 御 科 学	脳 腫 瘍 学
1 研究室構成及び紹介 A. 脳循環制御学，脳血管障害学 ・脳血管障害研究グループ ・血管内脳神経外科手術研究グループ ・神経内視鏡手術研究グループ B. 機能的脳神経外科学，神経細胞組織科学 ・電気生理学研究グループ ・機能的脳神経外科研究グループ C. 脳腫瘍学 ・悪性脳腫瘍研究グループ ・良性脳腫瘍研究グループ ・間脳下垂体疾患研究グループ	
2 現在の研究テーマ A. 脳循環制御学，脳血管障害学 ・脳血管障害研究グループ - 脳血管障害に関する実験的，臨床的研究（特にクモ膜下出血に伴う諸病変の病態解明） - 脳血管攣縮の病態解明並びにその予防及び治療法の開発 - 脳血管攣縮の分子生物学的治療方法の開発 ・血管内脳神経外科の治療研究グループ - 血管内手術手技による脳神経外科の疾患治療に関する臨床的研究 ・神経内視鏡手術研究グループ - 内視鏡支援手術の臨床的研究 B. 機能的脳神経外科学，神経細胞組織科学 ・電気生理学研究グループ - 誘発電位の術中モニタリングへの臨床応用 - 神経外傷，特に蝸牛神経損傷，変性の研究 ・機能的脳神経外科研究グループ - 不随運動に対する定位脳手術の臨床的研究 - 不随運動に関する動物実験モデルによる基礎的研究 C. 脳腫瘍学 ・悪性脳腫瘍研究グループ - 悪性脳腫瘍，特に膠芽腫における病態解明と治療法の開発 - 悪性脳腫瘍に対する革新的化学療法の開発 - 髄液播種に関する病態解明と予防法の基礎的，臨床的研究 - 悪性脳腫瘍に関するインテリジェント手術法の開発 - ガンマナイフ治療の開発 ・良性脳腫瘍研究グループ - 頭蓋底腫瘍に関する安全で低侵襲な手術法の開発 ・間脳下垂体疾患研究グループ - 下垂体腺腫の病態解明と治療方法に関する臨床的，基礎的研究	
3 大学院への入学方法 脳神経外科学を修めることを希望し，大学院入学試験に合格した者に対して大学院入学を許可している。	
4 大学院修了後の進路 通常，大学院修了2年後に受験資格が生じる脳神経外科専門医試験に向けて，大学病院や関連病院において臨床研修を行う。国内，海外留学も推奨している。	

講座名 歯科口腔外科学	
領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	顎 口 腔 腫 瘍 病 態 学
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学	顎 口 腔 機 能 再 建 学
1 研究室構成及び紹介 講座所属の大学院生と指導教員を以下の2グループに分けて研究活動を行っている。 ①骨吸収・再生医療研究グループ（顎口腔機能再建学分野に対応） ②口腔癌病態解析・制御研究グループ（顎口腔腫瘍病態学分野に対応） 2 現在の研究テーマ 顎口腔領域に発生する種々の疾患の病態を，形態学的・分子生物学的・理化学的手法を用いて基礎的・臨床的に解明し，その結果に基づいた新たな治療法の開発を目的とする。主な研究項目と方針を以下のように設定し指導している。 ①骨吸収・再生医療研究グループ（顎口腔機能再建学） ・顎骨嚢胞並びに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 ・病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 ・骨細胞の機能と骨吸収因子に関する分子生物学的研究 ・口腔粘膜および骨の再生医療研究 ・硬組織の理化学的分析，人工歯根の臨床応用 ②口腔癌病態解析・制御研究グループ（顎口腔腫瘍病態学） ・悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療に関する研究 ・口腔癌の術後組織欠損の再建に関する臨床的研究 ・口腔癌患者の特異的，非特異的免疫能と予後との関連 ・光線力学療法の腫瘍抑制メカニズムの解明 ・組織再建における血管柄付皮弁の血流と組織壊死防止の研究 ・細胞周期制御による口腔癌遺伝子治療の研究 3 大学院への入学方法 1年間の卒後臨床研修を修了後，入学を許可する。 4 大学院修了後の進路 弘前大学医学部附属病院医員（非常勤歯科医師）として，引き続き口腔顎顔面外科の臨床と研究活動に従事する。もしくは，当教室関連病院歯科口腔外科に勤務し，臨床能力の研鑽を積む。また，本人の希望があれば海外留学も推奨する。	

講座名 形成外科学		
領	域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学		創 傷 治 癒 学
		体 表 機 能 形 態 再 建 学
1 研究室構成及び紹介 グループ制は行っていない。 研究においては、臨床の場で生じた疑問を、より追求し、臨床にフィードバックできることを目標として行っている。		
2 現在の研究テーマ 1. 創傷治癒 ・創傷被覆材の開発 ・薬剤やキャリアーと上皮化促進の関係 ・細菌感染と治癒 ・褥瘡のメカニズム ・薬剤の皮弁生着率への影響 ・創環境と皮弁生着率の関係 ・瘢痕・ケロイド発生のメカニズム ・軟骨膜の軟骨生成能 ・移植軟骨の吸収と再生 ・移植軟骨の経時的変化 ・効果的皮膚移植法の開発 2. 体表機能形態再建 ・血管吻合部の組織学的変化 ・各種皮弁の血行形態の解析 ・顔面表情筋の形態と機能の関連		
3 大学院への入学方法 2年間の卒後臨床研修後、本人の入学希望時期を相談の上、入学を許可している。		
4 大学院修了後の進路 入学時期によるが、原則として、形成外科専門医の取得を目標として当大学形成外科、または関連施設でトレーニングを行う。海外留学の希望があれば考慮する。		

講座名 救急・災害医学

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	危 機 管 理 医 学

1 研究室構成及び紹介

教授 1，講師 1，助教 2

平成16年度に新しく講座が開設され、救急医学と災害医学に関する幅広い研究を行っている。
救急医学領域では、外傷、敗血症、熱傷に対する重症度評価と予後改善のための新しい治療法に関する研究を進めている

災害医学領域では、災害時のコミュニケーションツールと電子式トリアージシートの開発ならびに被ばく医療における治療プロトコルの作成に関する研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

現在、以下のようなテーマで研究を行っている。

- 1) 鎮静剤の敗血症に対する抗炎症効果
- 2) CT画像を用いた重症度評価への取り組み
- 3) 災害医療におけるコミュニケーションツールの開発
- 4) 地域における緊急被ばく医療体制と原子力災害対策、避難計画の確立
- 5) 被ばく医療に対する治療プロトコルの作成
- 6) 電子式災害トリアージシートの開発

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修 2 年間修了後の入学が望ましい。

4 大学院修了後の進路

個人の意思を尊重するが、原則として救急医を目指し弘前大学医学部附属病院高度救命救急センターや他の救命救急センターや救急指導医指定施設での臨床修練を行う。

講座名 臨床検査医学

領 域	教 育 研 究 分 野
分 子 遺 伝 情 報 科 学	分 子 遺 伝 検 査 学
病 態 制 御 科 学	病 態 検 査 学

1 研究室構成及び紹介

細菌検査・遺伝子グループ、血液サイトメトリーグループ、感染制御グループ、心身医学と免疫等研究テーマにより検査部スタッフと共同で研究にあたる。

2 現在の研究テーマ

①各細胞と炎症・免疫のクロストーク

好中球，好酸球，単球，リンパ球，血管内皮細胞，気道及び消化管上皮，さらに赤血球などいずれの細胞も炎症や免疫反応に深く関与している。これらの細胞のどれをとっても興味ある病態の一端をになうものであり，研究の切り口がある。どのようなアプローチであっても謎の多い病態の解明，治療法の端緒を切り開くヒントを与えてくれるはずである。

②先天性疾患をはじめとするハンディキャップを背負った人々の社会適応の補助に関する研究

いわゆるゲノムや分子生物学などといった科学的アプローチとは異なるが，これらの方々の社会的自立や尊厳の回復，生活の質の向上に向けた社会医学的働きかけやその根拠となる調査研究は大切な研究課題である。サイエンスの枠を超えて，社会医学的切り口での研究活動も重要なテーマとして据える。

③院内感染防止対策に貢献する検査部医療情報システムの構築

MRSA 等の薬剤耐性菌による院内感染では，感染源の特定や迅速な診断法の確立が求められている。パルスフィールドゲル電気泳動や PCR 等による迅速で有効なジェノタイピング決定法を検討し，院内感染対策へ向けて院内感染情報を充実させその効果を検討する。

④精神が免疫に与える影響について，細胞生物学的手法や心身医学的分析手法で検討を行う。

3 大学院への入学方法

大学院への入学を積極的に勧める。各人の意向や条件により，専攻や勤務との兼ね合いなど一番好ましい条件を随時相談する。

4 大学院修了後の進路

臨床検査専門医，感染制御関連資格を取得し，検査部の多様でしかも多岐にわたる業務に対する要望に迅速に対応する能力と感染制御の実務を身に付ける。同時に世界の最先端の研究室への海外留学を目指す。

講座名 病理診断学	
領 域	教 育 研 究 分 野
腫 瘍 制 御 科 学	外 科 病 理 診 断 学
病 態 制 御 科 学	細 胞 計 量 解 析 学

1 研究室構成及び紹介

病理診断学講座は、外科病理診断を通じて医療・医学に貢献することが大きな目的である。医療・医学が細分化される中、いかなる臓器にいかなる病変が現れるかわからない病変の多彩さに対応し正確で臨床医療・医学に役立つ病理診断を行うためには、病理医は高度の専門性と共に、general physician であることが必要である。さらに大学における病理医は単に診断や組織情報を臨床に還元するだけではなく、常に病態解析を心がけ疾患の本態を探究する姿勢の必要がある。これらは必ずしも病理医を目指す者のみならず、病理以外の臨床医療・医学を目指す者にとっても、病理診断学を学ぶことはそれぞれの分野での診断治療や研究に大きく役立つ。このように病理診断学は医療医学の質的向上に大きく貢献できる要素を多分に含有している。当講座はこのような病理診断学の特性を医療医学に最大限発揮したいと考えている。

2 現在の研究テーマ

【外科病理診断学】

- (1) 肺腫瘍の診断、治療への病理診断学の応用
- (2) 肺高血圧症発症への病理学的アプローチ
- (3) 脳腫瘍分類への病理学的アプローチ
- (4) 脳腫瘍悪性化と血管新生の研究
- (5) 脳腫瘍の悪性度判定
- (6) 癌治療効果判定への DNA 損傷応答の応用
- (7) 細胞周期およびアポトーシス制御と悪性化との解析
- (8) DNA 損傷応答と癌化の解析
- (9) 性ホルモン産生性卵巣腫瘍の分子病理学的研究

3 大学院への入学方法

医学部および歯学部卒業者で将来、病理専門医、あるいは口腔病理専門医を目指す者。病理以外の臨床医学を志す者で、外科病理診断学、および病理学的病態解析に興味を持つ者。

4 大学院修了後の進路

大学のスタッフとしてさらに研修を継続する。この間、国内の他施設での研修や研究、海外での研修や研究を推奨し斡旋する。将来は臨床医療・医学に貢献できる病理医として活躍できる素質を養う。また、病理以外の臨床科において大学院で学んだ知識や能力を発揮することも推奨する。

講座名 小児外科学			
領 域		教 育 研 究 分 野	
成 育 科 学		小 児 外 科 学	
1 研究室構成及び紹介 教授（併任），准教授，講師，助教，大学院生の体制で研究を担当			
2 現在の研究テーマ 1）先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究 2）胆道系疾患の病因・病態解明研究 3）直腸肛門疾患の病因・病態研究 4）QOL を目指した手術法，腹腔鏡手術の開発 5）小児外科疾患全般に関する臨床研究 主な対象疾患 1．日常的な疾患 鼠径ヘルニア，臍ヘルニア，停留精巣，肛門周囲膿瘍，痔瘻，裂肛，急性虫垂炎，小児慢性便秘 2．新生児・乳児外科的疾患 肥厚性幽門狭窄症，腸重積，直腸肛門奇形（鎖肛），ヒルシュスプルング病，腹壁破裂・臍帯ヘルニア，腸閉鎖・狭窄症，食道閉鎖・狭窄症，胆道閉鎖症，総胆管拡張症，腸回転異常症，横隔膜ヘルニア 3．小児がん（固形悪性腫瘍） 神経芽細胞腫，肝悪性腫瘍，腎芽腫（ウィルムス腫瘍），横紋筋肉腫など 4．小児救急疾患 腹部外傷，熱傷，異物誤飲，腸重積，急性虫垂炎，そけいヘルニア嵌頓			
3 大学院への入学方法 2年間の卒後研修修了後に大学院の入学を許可している。			
4 大学院修了後の進路 附属病院ならびに関連病院で臨床研修を行い，外科専門医を取得後，さらに小児外科専門医の取得を目指す。また，国内外の留学を推奨している。			

講座名 医学医療情報学

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	医 療 情 報 学
感 覚 統 合 科 学	画 像 情 報 ・ 生 体 光 学

1 研究室構成及び紹介

医学医療情報学講座は大学院重点化により誕生した分野で、母体は附属病院医療情報部である。講座の教授1名、病院准教授1名、助手1名が一体となり、病院情報ネットワークシステムの開発・管理、地域医療情報連携ネットワークシステムの基盤整備、院内がん登録・地域がん登録事業、医用画像の特徴抽出と分類の研究を行っている。

研究室構成

佐々木賀広（教授・部長兼任）

松坂 方士（准教授・副部長）

田中 里奈（助手）

2 現在の研究テーマ

- 1) 病院情報ネットワークシステムにおけるデータの2次利用。
- 2) 電子レセプトの利活用（EHRの構築並びにデータの2次利用）。
- 3) 地域がん登録事業における登録症例集積N/Wシステムの開発と運用。
- 4) 医用画像の特徴抽出と分類（信号処理と人工知能）。

3 大学院への入学方法

弘前大学大学院医学研究科（博士課程）の学生募集要項による。

4 大学院修了後の進路

他大学の医療・保健分野の教職となり得る。

講座名 総合診療医学

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	総 合 診 療 医 学

1 研究室構成及び紹介

教員は教授1，講師1から成る。附属病院内では卒後臨床研修センターの中核を担い，また総合診療部（教授1（兼任），准教授1，助教1から構成）として，総合地域医療推進学講座（講師1）とともに本学におけるプライマリ・ケア教育及び診療の実践部門としての使命を負っている。内容的にはいかなる主訴の患者が来院しようとも，とりあえず初期対応を行い，必要があれば適切に各専門科に紹介することができ，全人的な医療を実践できるような医師の養成を目指す，常に教育内容のレベルアップを目指した研究を行ってゆく。また卒前教育では，1年次「臨床医学入門」，2年次「地域医療入門」，4年次臨床入門科目「Pre BSL」，5年次BSL，6年次クリニカルクラークシップ等に幅広く参画している。2018年度から開始予定の新・専門医制度で創設される「総合診療専門医」の養成に関し，今後本学および本県における総合診療専門医養成の中核となるべく，準備を整えている。

2 現在の研究テーマ

- ・高齢者救急疾患における個体差の発生機序の研究
- ・救急疾患の初期症状と診断のピットフォールの臨床的研究
- ・医師の診断思考過程の医学教育学的研究
- ・医療技術習得過程の医学教育学的研究
- ・携帯型エコーの効果的使用法の開発に関する研究
- ・慢性非癌性疼痛の機序および治療法に関する臨床的研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を修了していれば入学可能である。医学教育に興味がある人，総合診療・総合内科に興味がある人，地域医療に興味のある人，1次－3次の全ての救急患者が訪れる救急外来（いわゆるER型救急）に興味がある人，common diseaseに習熟したい人，全人的医療を追求したい人を歓迎する。

4 大学院修了後の進路

総合診療医としての活躍が期待される。具体的には，総合病院で総合内科医をめざす人，救急外来（ER型救急）での救急医をめざす人，地域の医療機関でいわゆる家庭医をめざす人，大学病院等の医育機関でこれらの領域の指導医をめざす人などさまざまであり，もちろん総合診療部のスタッフの一員として活動することも可能である。

講座名 薬剤学		
領	域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学		薬 毒 物 分 析 学
		プ ロ テ オ ソ ー ム 解 析 学
1 研究室構成及び紹介 今日まで薬剤部では、各診療科との共同研究を通じて薬物の相互作用の解析を中心に多い多くの業績を上げて来た。また、薬剤部業務に関わる多くの論文も作成してきた。これらの業績は、個々の薬剤師の努力によるところが大きい。今後これらの研究も継続しつつ、各種機器分析手法の活用を行い診療へ貢献したい。		
2 現在の研究テーマ 研究テーマ 1 経口抗がん剤の血中濃度分析法の確立 がん化学療法において、経口分子標的型の薬剤は従来の殺細胞型抗がん剤に比べ、高い抗腫瘍効果が得られること、注射剤に比べ、投薬が簡便であること、等のメリットを有することから、開発が進んでいる。しかしながら、血中濃度測定は十分に行われていないのが現状である。本研究では各種経口抗がん剤の分析法を確立し、個人差を考慮した適正使用に貢献することを目的としている。 2 抗体製剤の血中濃度測定法の確立 遺伝子組み換え抗体製剤では中和抗体が産生され、効果を減じることがしられていた。本研究では infliximab で産生される中和抗体のエピトープマッピングおよび中和抗体の産生量を測定する方法の開発を行い、診療への貢献を目指す。 3 アンジオテンシン変換酵素阻害剤の記憶保持増強機構の解明 2007年米国老年医学会において中枢移行性 ACE 阻害剤を投与した患者において認知機能低下の抑制が報告されたが、その機序は不明である。現在 ACE 阻害剤投与ラット脳において特異的に発現するペプチドを複数見出し構造決定した。これらのペプチドと記憶保持機構との関連性について分子生物学的に解析する。		
3 大学院への入学方法 薬学部を含めた学部4年制を卒業した学生が入学する場合には、修士課程またはそれに相当する学歴を有すること。薬学部6年制を卒業した学生は、直接大学院の受験資格を有す。なお、医学部卒業生はこの限りでない。		
4 大学院修了後の進路 薬学部学生（薬剤師）の場合は、病院薬剤部の薬剤師、薬学部の教員、製薬企業の研究員など、薬剤師の職能を生かせる多岐の分野に渡る。他学部学生は研究所等の研究員として研究経歴を生かした職種への就職が可能。		

講座名 脳神経病理学（附属脳神経血管病態研究施設）

領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	神 経 病 理 学
	分 子 病 態 学

1 研究室構成及び紹介

21世紀は「脳の時代」である。当教室では神経難病の病態解明を目標に、病理形態学、分子生物学、病態生化学などの手法を用い研究を進めている。神経変性疾患の多くは蛋白蓄積病であることから、「タンパク質の結合・修飾」の観点からアプローチを行っている。さらに、「封入体形成」や「神経細胞死」だけでなく、神経症状の発現に重要な部位として「シナプス」の変化にも焦点を当てている。

「脳」は「心」である。自分のやっていることに誇りが持てて、いつかどこかで「やった」と思える瞬間があればその人は幸せである。また、「サイエンス」は「人間のドラマ」であると同時に「競争」でもある。自由な中にも競争を求めて、各自が魅力的な研究を行っている。研究をやりたい方、脳に興味のある方を歓迎する。

2 現在の研究テーマ

- 1) 神経変性疾患（パーキンソン病，運動ニューロン病）における封入体形成メカニズム
- 2) 認知症における神経細胞変性と蓄積物質
- 3) グリア細胞の機能と各種病態における変化
- 4) 遺伝子改変モデル動物を用いた病態解析

研究業績等については教室のホームページをご参照下さい。

3 大学院への入学方法

通常の方法による。社会人入学も歓迎する。

4 大学院修了後の進路

基礎研究を続けるか、臨床に進むか、本人の意志を尊重する。現在、スタッフの定員が埋まっているので、大学院修了後も研究の継続を希望する場合には、他施設にポストを求めるか、海外留学することを推奨する。これは研究者として羽ばたくためのチャンスでもある。

講座名 脳血管病態学（附属脳神経血管病態研究施設）

領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	脳 血 管 病 態 学
循 環 病 態 科 学	脳 循 環 病 態 学

1 研究室構成及び紹介

脳血管病態学講座は、附属脳神経血管病態研究施設の一講座として、施設内や医学科内の他の講座と密接な連携の下に、教育・研究活動を行っており、神経科学、分子生物学、生化学、生理学、病理学、神経学、薬理学などさまざまな分野の専門家による共同研究やディスカッションが可能な環境で、自由かつ活発に活動しています。

2 現在の研究テーマ

1. 脳血管障害の病理病態に関する基礎研究
2. 認知症の病理病態に関する基礎研究
3. 血管系細胞，グリア細胞，神経系細胞の細胞生物学的研究
4. 慢性炎症性疾患の病理病態に関する基礎研究
5. 自然免疫系の情報伝達や調節機構に関する研究
6. 異所性石灰化の病理病態に関する基礎研究
7. その他一研究の過程で得られた問題意識にも、自由に取り組んでいます。

※ 大学院生のテーマは、一人一人のバックグラウンドや興味に応じて、講座の名称や上記のテーマにとらわれず、フレキシブルに設定しています。

（例：抗ウイルス応答の研究、腎炎の研究、気道炎症の研究、胃炎の研究、歯周病の研究、胆道免疫の研究、など）

3 大学院への入学方法

今泉忠淳（基礎医学校舎3階，timaizum@hirosaki-u.ac.jp）

または、脳血管病態学講座受付（内線5145，byoutai@hirosaki-u.ac.jp）に連絡してください。

研究者を目指す方、医師の後期研修の一環の方、他学部出身者、社会人など、興味のある人はどなたでも受け入れる用意がありますので、ご相談下さい。

4 大学院修了後の進路

臨床医，大学教員，留学 など

5 講座の情報は、HP・ブログでも公開しています。

ホームページ <http://timaizum.wix.com/vbversion2>

ブログ <http://vascularbiology.blog.fc2.com/>

講座名 脳神経生理学（附属脳神経血管病態研究施設）

領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	神 経 生 理 学
感 覚 統 合 科 学	感 覚 生 理 学

1 研究室構成及び紹介

当研究室での主要な手法を以下に示す。

- ①脳スライスパッチクランプによるシナプス反応測定および神経機能の電気生理学的解析
- ②光標識物質を用いた細胞内イオン濃度変化測定
- ③多点同時記録電極による興奮性伝搬解析
- ④脳スライスを用いた LTP 現象解析
- ⑤痛みモデル動物の作成および疼痛評価
- ⑥遺伝子改変動物，モデル動物におけるマイクロアレイ発現解析
- ⑦遺伝子改変動物を用いた，行動解析および脳波解析
- ⑧自由行動下での神経細胞外記録
- ⑨スパインの形態，数および面積を指標とした可塑性解析

現在のスタッフは教授 1 名，助教 2 名，研究生 2 名 大学院生 1 名

2 現在の研究テーマ

- ・ GABA-A 受容体トラフィック機構の解明
GABA-A 受容体結合蛋白質の欠損動物，ストレス負荷動物を用いた GABA-A 応答の変化と細胞内受容体分布変化を解析する
- ・ 麻酔作用発現における GABA - A 受容体の役割
ベンゾジアゼピン長期投与による GABA-A 受容体機能および構成タンパク質変化のメカニズムの研究
- ・ 嗅覚刺激におけるストレス緩和経路の探索
- ・ ストレスモデルにおける GABA-A 受容体機能変化と不安行動への影響に関する研究
- ・ 神経疾患病態にかかわる神経 - グリア間のシグナル伝達機構の解明
- ・ fragile X syndrome のモデルマウス Fmr1 knockout を用い，GABA 伝達系の異常と行動異常発症メカニズムとの関連の探索

3 大学院への入学方法

随時

4 大学院修了後の進路

講座名 脳神経内科学（附属脳神経血管病態研究施設）

領 域	教 育 研 究 分 野
脳 神 経 科 学	脳 神 経 病 態 内 科 学

1 研究室構成及び紹介

当講座の教授1, 准教授1, 助教 1, 言語訓練士1の他に, 附属病院神経内科所属の助手2に加え, 非常勤講師による大学院研究指導を行っている。

2 現在の研究テーマ

以下のテーマを臨床疫学, 神経科学, 遺伝医学などの最新の手法を用いて分子レベルで解明する。

①認知症

アルツハイマー病における Aβ amyloidosis と Tauopathy の病態カスケードの解明, 疾患関連遺伝子の解明, 診断法・認知リハビリテーションの開発, Aβ, tau および新規バイオマーカーとアミロイド, タウ画像診断の開発, 病態修飾薬の開発および大規模臨床試験, モデル動物の開発, 前頭側頭葉変性症・レビー小体型認知症の病態解明と診断・治療法の開発
DIAN-Japan 研究, 先端医療 B などの国際的なコンソーシアム研究を行っている。
血液, CSF バイオマーカーの開発を行っている。

②脳血管障害

関連遺伝子解明, 臨床疫学, 症候学, 治療実績, 治療法の開発, 画像診断, クリニカルパスの開発

③パーキンソン病

診断マーカーの開発, 疾患関連遺伝子解析, α-synucleinopathy の病態解明, モデル動物の開発と病態解明と根本的治療法の開発, 新規治療薬の評価

④脊髄小脳変性症

遺伝学的検査, 原因遺伝子解明と病態解析, 根本的治療法の開発

⑤筋萎縮性側索硬化症

原因遺伝子検索, 診断マーカーの開発, TDP-43 proteinopathy および FUS/TLS 病態の解明, 根本的治療法の開発

⑥神経再生機序の解明との治療法への応用

iPS 細胞を用いた神経変性疾患の根本的治療の開発

⑦神経感染症・神経免疫疾患, 筋・末梢神経障害の臨床的研究

3 大学院への入学方法

- ・原則として初期臨床研修後（神経病学を含む2年間）に入学。
- ・研究に専念することを望む場合は卒業後直接入学も可。
- ・社会人入学も可（個別に条件等を取り決めることとする）。

4 大学院修了後の進路

原則として神経内科医として更に研鑽を積み, 神経内科専門医資格を得ることを経て, 本学及び青森県内外の諸病院神経内科および関連研究施設で臨床および研究に従事する。また研究を継続する場合には, 国内外への留学などを含め, 各個に対応する。

講座名 分子生体防御学（附属高度先進医学研究センター）

領 域	教 育 研 究 分 野
分 子 遺 伝 情 報 科 学	分 子 情 報 学
病 態 制 御 科 学	分 子 生 体 防 御 学

1 研究室構成及び紹介

教授 伊東健，講師 三村純正

助教 山崎博未，叶 鵬

高度先進医学研究センターの分子生体防御学講座は、酸化ストレスに対する恒常性維持機構、遺伝子発現調節機構を明らかにし、新しい疾患予防法、健康増進法、病態改善法を見出すことを目標に研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

抗酸化剤応答配列（ARE）を介した遺伝子発現誘導機構は、高等動物が酸化ストレスに適応するための生体防御機構として進化してきた。近年、この応答が、発癌、急性肺障害・炎症および神経変性疾患の防御に有効であることが明らかになった。私たちの研究室では、酸化ストレスが疾患に果たす役割を解明するとともに、上記適応機構が疾患防御に果たす役割を解明し、その臨床応用を目指している。

* 神経変性疾患における Nrf2 応答経路の役割

* 転写因子 Nrf2 と eIF2 α リン酸化経路のクロストークの解析

* Nrf2 による鉄代謝の制御機構の解析

* ヘムオキシゲナーゼ 1 の疾患防御における役割の解析

* ブロッコリーなどの食餌性物質による ARE 転写機構の活性化による疾病予防の解析（炎症、脳変性疾患など）

3 大学院への入学方法

- 1) 医学、歯学系大学卒業生または理系大学院修士課程修了者
- 2) 卒後臨床研修 2 年修了後
- 3) 臨床系大学院生の身分のまま、当講座での研究に数年間参加することを歓迎する。

4 大学院修了後の進路

学内外の研究機関において基礎医学研究を継続するか、臨床系講座・部門に移り、臨床または臨床研究に従事する。または、企業・製薬会社等に就職する。

講座名 糖鎖工学（附属高度先進医学研究センター）

領 域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 科 学	抗 加 齢 ・ 再 生 医 学
病 態 制 御 科 学	糖 鎖 工 学

1 研究室構成及び紹介

プロテオグリカンの糖鎖構造に刻まれた生命現象や疾患に関する情報を、糖鎖工学，糖鎖生物学の立場から解読することを目指した研究を行っています。また，解読した糖鎖情報をもとに，細胞機能の調節，さらには創薬に結びつけるための研究を行っています。

教授（兼任）1，准教授1，助教1，助手1で構成され，研究教育活動を行っています。

2 現在の研究テーマ

1) 糖鎖工学

- ・生理活性を有するグリコサミノグリカン糖鎖の酵素的組み換え（キメラ型糖鎖のオーダーメイド）と機能解析
- ・糖鎖組み換えプロテオグリカンの構築と機能解析

2) 糖鎖生物学

- ・プロテオグリカンのグライコーム解析（各種病態における糖鎖の構造と機能の解析）
- ・プロテオグリカンおよび関連分子の医療素材への応用

3 大学院への入学方法

- 1) 医歯薬学系6年制大学卒業者または理系大学院修士課程修了者
- 2) 卒後臨床研修2年修了後
- 3) 臨床系大学院生の身分のまま，当講座での研究に参加することを歓迎しています。
- 4) 社会人入学を考えている方も歓迎します。

4 大学院修了後の進路

- 1) 基礎医学研究の継続。
- 2) 臨床系講座，部門に移り，臨床または臨床研究に従事。
- 3) 学外その他研究機関で研究に従事。
- 4) 国外の研究機関への派遣を推奨しています。

講座名 不整脈先進治療学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
循 環 病 態 科 学	不 整 脈 先 進 治 療 学

1 研究室構成及び紹介

循環器腎臓内科学講座と連携し、

- 1) 難治性頻脈性不整脈における先進的心内マッピングシステムの開発とその臨床応用
- 2) 不整脈ならびに心不全治療デバイスによる不整脈機序の解明と心不全の病態理解のための新たなデバイス機能の開発
- 3) 不整脈ならびに心不全治療デバイスを用いた遠隔患者モニタリングによる新しい患者管理システムの構築を目的とした基礎的、臨床的研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

- ① 3次元マッピングシステムを用いた心房細動を始めとする不整脈機序の解明と、カテーテルアブレーションを中心とした非薬物治療法の臨床応用
- ② 植込み型不整脈治療デバイスを用いた心臓突然死の発生機序の解明とその予知と予防法の開発
- ③ 心不全治療デバイスを用いた治療抵抗性重症心不全の病態の解明と治療法の確立
- ④ 不整脈治療デバイスを用いた遠隔患者モニタリングシステムの臨床応用

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を2年修了し、さらに2年間の内科研修（1年目は循環器，呼吸器，腎臓，脳卒中分野，2年目は消化器，糖尿病などの内科領域および救急研修）を修了後、大学院への入学を勧めている。2年目より社会人として入学することも可能である。なお、合計4年間の臨床研修を求める理由としては、2年間の内科以外も含めた広い分野の卒後臨床研修に加え、循環呼吸腎臓内科学の専門とする領域における特殊診断および治療技術を1年間学び、習得すること、またさらに1年間でこれら以外の内科分野、救急医療を研修することにより、幅広く内科の基礎を身につけてもらうためである。この4年間の初期および後期研修により、大学院における研究遂行に対するモチベーションがより具体化するものと期待される。

4 大学院修了後の進路

学外施設で1～2年間勤務した後、海外または国内留学、あるいは大学スタッフとして勤務、学外その他施設での勤務、など、個人の希望をふまえて相談の上決定される。特に大学スタッフとして勤務する場合は、学会、研究会、研修会など国内外を問わず積極的に参加することが奨励されており、自己の研鑽を積む環境としては最高である。

講座名 先進移植再生医学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
機 能 再 建 ・ 再 生 医 学	先 進 移 植 再 生 医 学

1 研究室構成及び紹介

研究においては泌尿器科学講座，消化器外科学講座および循環器・呼吸器・腎臓内科学講座と連携体制をとっている。テーマごとに数名のスタッフでプロジェクトチームを構成している。実際の研究は，先進移植再生学講座のスタッフおよび鷹揚郷腎研究所のスタッフとの共同研究という形で行われる。4名のPhDスタッフおよび9名のMD,PhDスタッフがman-to-manで大学院生の指導に当たる。

2 現在の研究テーマ

再生医療，生体腎移植，生体肝移植および献腎移植に関するテーマの中で，特に最先端の先進的研究テーマに重点を置く。

- ・移植臓器摘出術および臓器保存法の改良
- ・次世代クロスマッチ法の開発
- ・次世代抗体スクリーニング法の開発
- ・抗体除去療法などの新規血液浄化療法の開発
- ・ABO血液型不適合移植に関する基礎的研究
- ・免疫抑制剤を使用しない臓器移植法の開発
- ・臓器移植に関する倫理的および法的問題点
- ・日本の臓器移植法の変遷と問題点
- ・脂肪組織由来幹細胞の臨床応用

以上が主な研究テーマである。

3 大学院への入学方法

原則として初期臨床研修（2年間）の後に大学院に入学する。泌尿器科専門医資格と学位が同時に無理なく取得できるカリキュラムを構築している。

4 大学院修了後の進路

臨床医として当教室および関連施設で活躍する場が待っている。特定の診療技術習得を目的に国内外の病院での研修も可能である。仙台社会保険病院での腎腫瘍・腹腔鏡トレーニングプログラム，宮城県立こども病院での小児泌尿器科研修プログラム，宮城県立がんセンターでの泌尿器癌研修プログラム，東北労災病院での神経泌尿器科研修など。

また，研究をさらに発展させたい場合は，学内の教室や当教室と共同研究を行っている施設（北海道大学，秋田大学，東北大学，東北薬科大学，大阪大学，京都大学，琉球大学，The Sanford Burnham Institute）およびCleveland Clinic, Mayo Clinic, University of California San Francisco(UCSF)などへの留学が可能である。

講座名 地域医療学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	地 域 医 療 学

1 研究室構成及び紹介

消化器グループ

腎グループ

糖尿病グループ

2 現在の研究テーマ

消化器グループ

津軽地域のがんの疫学に関する研究

胃癌，大腸癌の内視鏡的治療についての研究

効率的な胃がん検診に関する研究

ヘリコバクター・ピロリ除菌による胃がんの予防に関する研究

高齢発症炎症性腸疾患の病態と臨床的特徴に関する研究

腎グループ

津軽地域における糖尿病性腎症Ⅱ期に関する観察研究

糖尿病性腎症進展予防に関する研究

糖尿病グループ

糖尿病における高血圧合併症と治療状況

高齢糖尿病患者のサルコペニア予備群発症率と臨床的特徴

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を2年間修了後に入学を許可している。

4 大学院修了後の進路

大学病院または各講座の関連病院において臨床修練を行う。

講座名 心臓血管病先進治療学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
循 環 病 態 科 学	心 臓 血 管 病 先 進 治 療 学

1 研究室構成及び紹介

循環器腎臓内科学講座と連携し、

- 1) 治療が困難である難治性の冠動脈疾患の診療・研究に取り組み、臨床治療レベルの向上と、地域医療への貢献
- 2) 冠動脈疾患を中心に心臓血管病領域の先進的な検査法、治療法の開発を目的とした基礎的、臨床的研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

循環器腎臓内科学講座と連携し、

- ①急性心筋梗塞後の心室リモデリングの病態と予防に関する基礎的並びに臨床的研究
- ②冠攣縮性狭心症の成因に関する研究
- ③冠攣縮性狭心症の薬物治療と生命予後に関する研究
- ④急性冠症候群の早期診断と予後に関する研究
- ⑤心不全の病態に関する臨床的並びに基礎的研究
- ⑥薬剤溶出性ステントによる経皮的冠動脈形成術に関する臨床的研究
- ⑦急性冠症候群における冠動脈内プラークイメージングの臨床的研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を2年修了し、さらに2年間の内科研修（1年目は循環器、呼吸器、腎臓、脳卒中分野、2年目は消化器、糖尿病などの内科領域および救急研修）を修了後、大学院への入学を勧めている。2年目より社会人として入学することも可能である。なお、合計4年間の臨床研修を求める理由としては、2年間の内科以外も含めた広い分野の卒後臨床研修に加え、循環器腎臓内科学の専門とする領域における特殊診断および治療技術を1年間学び、習得すること、またさらに1年間でこれら以外の内科分野、救急医療を研修することにより、幅広く内科の基礎を身につけてもらうためである。この4年間の初期および後期研修により、大学院における研究遂行に対するモチベーションがより具体化するものと期待される。

4 大学院修了後の進路

学外施設で1～2年間勤務した後、海外または国内留学、あるいは大学スタッフとして勤務、学外その他施設での勤務、など、個人の希望をふまえて相談の上決定される。特に大学スタッフとして勤務する場合は、学会、研究会、研修会など国内外を問わず積極的に参加することが奨励されており、自己の研鑽を積む環境としては最高である。

講座名 地域健康増進学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	地 域 健 康 増 進 学

1 研究室構成及び紹介

本講座の教育，研究は中路重之特任教授（併任）を中心に，沢田かほり助教（専任）がそれぞれの研究テーマにしたがいながら共同で担当する。当講座は弘前市における「地域保健」，「健康づくり」の推進に関わる中核施設として平成24年4月に本学大学院医学研究科内に設置された。また，これに合わせて弘前市における「健康づくり」を軸とした地域保健活動を推進するため，本講座が中心となり同市の地域保健，健康推進に関わる人材の育成を行う。さらに，本講座では弘前市を題材とした健康科学に関わる研究成果の公表や各種講演の企画や開催等を通じ，同市民に対し生活習慣病の予防，改善策や健康の維持，増進策に関わる知識を啓発，普及すると共に，これに関わる具体的な方法や行動を助言，指導する。また，本講座ではこれに関わる社会的基盤の整備と地域システムの構築を目指す。すなわち，本講座ではこれらの活動の有効性を社会医学，健康科学的観点から検証する。

2 現在の研究テーマ

本講座では主に本学社会医学講座が旧中津軽郡岩木町（現弘前市岩木地区）との連携事業として平成17年に創設し，平成18年度から弘前市との連携事業となった「岩木健康増進プロジェクト」（弘前市岩木地区における地域健康増進活動）を活用し，研究活動を行う。

（1）生活習慣病の発症要因，メカニズムの解明

「岩木健康増進プロジェクト」で行う「プロジェクト健診（成人対象）」や「小中学生健康調査（小学5年生～中学3年生対象）」の調査データを活用し，生活習慣病の発症要因やメカニズム，生活習慣と健康状況の関連等を明らかにする。

（2）生活習慣病の予防，改善策及び地域健康づくり対策の構築とその効果の検証

（1）により得られた研究結果を元に生活習慣病の改善，予防対策及び地域健康づくり対策を抽出，立案し，これを「岩木健康増進プロジェクト」で実施している「健康実践教室」や弘前全域で展開している「ヒロダイいきいき元気塾」等で実行し，その有効性を検証する。

（3）地域健康づくりに関する人材育成とその応用の効果を検証

弘前市全域における健康づくり対策に必要な人材（健康づくりの指導者＝リーダー）を弘前市と連携，協力し本講座で育成する。また，市民のニーズに合せ育成した人材を実際の健康づくり活動に登用し，市民の地域健康づくり活動を推進，活性化させる。また，これにより構築，運用される地域健康づくり対策及びそのシステムの有効性を検証する。

3 大学院への入学方法

各種機関・施設に所属しながら就学する社会人枠でも入学が可能であり，大いに歓迎する。また，医学研究分野以外の大学院修了者の受け入れも積極的に行っており，医学科卒業生同様，社会人枠入学も可能である。

4 大学院修了後の進路

卒業後，臨床医あるいは大学院での研究を発展・継続させ，さらなる研究の道を目指すことも可能である。また，入学時・在学中に他大学や各種研究機関に所属している者は，修了後は在学中に学び，得た専門的知識と技能をそれぞれが所属する機関で行う教育研究に活かすことができる。

講座名 高血圧・脳卒中内科学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
循 環 病 態 科 学	高 血 圧 ・ 脳 卒 中 病 態 内 科 学

1 研究室構成及び紹介

富田教授，木村准教授，横田講師，田中助教がスタッフで，高血圧の臨床，研究，教育並びに脳卒中の臨床，研究，教育を担当している。富田教授，木村准教授を中心として，全身の血管病の一側面としての脳卒中とその最大の危険因子である高血圧の成因・治療に関する基礎的並びに臨床的研究，学生教育，一般市民を対象にした講演などの社会活動を行っている。また，木村准教授は脳卒中と不整脈の関連についての診療・研究を担当している。

2 現在の研究テーマ

A. 細胞・器官機能学，循環・呼吸生理学

- ・脳構成細胞のアポトーシスに関する研究
- ・脳卒中例における降圧療法と脳血流の関係
- ・脳卒中例から得られた生体試料の解析による脳動脈硬化の病態生理の解明
- ・脳動脈硬化の病態生理に基づく新規の治療法の確立
- ・脳卒中再発予防のための新規の治療法の確立
- ・脳卒中の急性期治療における血圧管理レベルと方法の確立
- ・頸動脈プラークに対する新規の治療法の確立

B. 器官病態情報学，循環呼吸病態科学

- ・脳動脈硬化の病態解明と再発進行抑制を目的とした治療法の開発
- ・脳卒中重症化因子の同定とリスク管理方法の確立
- ・脳卒中の再発予防における血圧管理方法の確立
- ・頸動脈に対するカテーテル治療後の薬物療法の確立
- ・脳卒中の発症進展における血小板凝集能の役割の解明

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を2年修了し，さらに2年間の内科研修（1年目は循環器，呼吸器，腎臓，脳卒中分野，2年目は消化器，糖尿病などの内科領域および救急研修）を修了後，大学院への入学を勧めている。2年目より社会人として入学することも可能である。2年間の内科以外も含めた広い分野の卒後臨床研修に加え，高血圧・脳卒中内科学の専門とする領域における特殊診断および治療技術を1年間学び，幅広く内科の基礎を身につけてもらう。この4年間の初期および後期研修により，大学院における研究遂行能力が備えられるものと期待される。

4 大学院修了後の進路

学外施設で1～2年間勤務した後，海外または国内留学，あるいは大学スタッフとして勤務，学外その他施設での勤務，など，個人の希望をふまえて相談の上決定される。特に大学スタッフとして勤務する場合は，学会，研究会，研修会など国内外を問わず積極的に参加することが奨励されており，自己の研鑽を積む環境としては最高である。

講座名 大館・北秋田地域医療推進学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	地 域 医 療 推 進 学

1 研究室構成及び紹介

当講座は平成25年10月に開講された大館市からの寄附講座であり，大学院医学研究科消化器外科学講座，総合診療医学講座，社会医学講座，消化器血液内科学講座，産科婦人科学講座をはじめとする多くの講座，医学部附属病院診療科等との連携の下に教育研究を行う。大館・北秋田地域の特性を踏まえ，がんを中心とする地域医療において重要な疾患に関する疫学研究や臨床研究を推進することが当講座の主たる目的だが，大館市立総合病院を中心とした卒前・卒後医学教育プログラムの充実，地域医療を担う医療従事者の確保に関しても重要な役割と考えている。

2 現在の研究テーマ

地域医療，特に大館・北秋田地域の重要疾患に関する疫学研究や臨床研究

1. 大館・北秋田地域における地域医療診療ネットワークの構築に関する研究
2. 地域医療において重要な疾患の予防・診断・治療に関する研究
3. 地域医療に対応した卒前・卒後医学教育プログラムに関する研究
4. 情報伝達技術を利用した地域医療支援システムに関する研究

3 大学院への入学方法

2年間の臨床研修を終えた後に入学を許可している。

4 大学院修了後の進路

弘前大学消化器外科，消化器血液内科，産婦人科をはじめとする弘前大学医学部附属病院での臨床研究及び大館市立総合病院をはじめ他関連施設にて臨床研修を行う。最終的には専攻分野の専門医の取得を目標とする。また研究面でのさらなる研修を希望するものは国内外の留学の場も多数用意できる。

主な研修施設：大館市立総合病院 市立函館病院 青森県立中央病院 国立弘前病院 むつ総合病院 八戸市立市民病院 三沢市立病院 青森市民病院 市立秋田総合病院 山形県立中央病院 山形県立河北病院 など青森県，秋田県，山形県，北海道を中心に多数

講座名 地域総合診療医学推進学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	地 域 総 合 診 療 医 学 推 進 学

1 研究室構成及び紹介

教員は教授1，助教1から成る。総合診療医学講座（教授1（兼任），講師1から構成），総合地域医療推進学講座（講師1）および附属病院の総合診療部（教授1（兼任），准教授1，助教1）と連携して本学におけるプライマリ・ケア教育及び診療，研究の中核部門としての使命を負っている。地域循環型総合診療医養成システムに関する研究を通じて，地域医療の充実に寄与することを目指すとともに，高齢化時代における地域医療に関する各種研究を通じて，総合診療医学の発展に寄与することを目的としている。

2 現在の研究テーマ

- ①地域循環型総合診療医養成システムに関する研究
- ②地域医療における緩和医療，救急医療，在宅医療の連携に関する研究
- ③地域医療における効率的な医療推進法に関する研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を修了していれば入学可能である。地域医療，プライマリ・ケア，総合診療，家庭医療等に興味がある人を歓迎する。

4 大学院修了後の進路

総合診療医，家庭医として地域医療の現場を舞台とした活躍が期待される。また大学医学部，大学病院等の医育機関で，これらの領域の教育，診療，研究のスタッフとなる道も開かれている。

講座名 地域救急医療学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	地 域 救 急 医 療 学

1 研究室構成及び紹介

教授 1，助教 2

教 授（併） 山村 仁

助 教（二外）

助 教（整形）

2 現在の研究テーマ

弘前市を中心とした地域の救急医療全般にわたる研究，とくに弘前地区の救急搬送症例の疫学的調査を行い，病院前救護体制の問題点を明らかにする。

1）地域救急搬送の実態調査

2）予防救急に関する全般網羅的な研究

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修 2 年間修了後の入学が望ましい。

4 大学院修了後の進路

個人の意思を尊重するが，原則として救急医を目指し弘前大学医学部附属病院高度救命救急センターや他の救命救急センターや救急指導医指定施設での臨床修練を行う。

講座名 総合地域医療推進学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	総 合 地 域 医 療 推 進 学

1 研究室構成及び紹介

教員は教授1，講師1から成る。総合診療医学講座（教授1（兼任），講師1から構成）および附属病院の総合診療部（教授1（兼任），准教授1，助教1から構成）と連携して本学における地域医療教育及び診療，研究の中核部門としての使命を負っている。超高齢化や新・専門医制度を踏まえ，弘前大学を起点とし県内の大小医療機関を循環する本県オリジナルの地域循環型医師育成システムに関する総合的な研究を通じて，地域医療の充実に寄与することを目的とする。

2 現在の研究テーマ

- ① 新・専門医制度に準拠し，弘前大学および多様な県内医療機関を主舞台とした地域循環型医師育成システムの構築および実証の研究。
- ② 大学と地域医療を結ぶトランスレーショナルリサーチ・プログラムの開発に関する研究（遠隔医療を含む）。
- ③ インフルエンザの自己診断，家族診断の診断精度に関する研究。

3 大学院への入学方法

卒後臨床研修を修了していれば入学可能である。地域医療，プライマリ・ケア，総合診療，家庭医療等に興味がある，innovative 志向な方を歓迎する。

4 大学院修了後の進路

総合診療医，家庭医として地域医療の現場を舞台とした活躍が期待される。また大学医学部，大学病院等の医育機関で，これらの領域の教育，診療，研究のスタッフとなる道も開かれている。

講座名 オーラルヘルスケア学（寄附講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	オ ー ラ ル ヘ ル ス ケ ア 学

1 研究室構成及び紹介

本講座の教育、研究は中路重之特任教授を中心に、徳田系代助教がそれぞれの研究テーマにしたがいながら共同で担当する。

当講座は、主に予防医学の観点に立ち、疫学の基礎的手法を用い、生活習慣病等と口腔環境・疾病の関係を考究するための研究を行い、それに関係する教育を行う。さらには、睡眠と歯科口腔環境・全般的健康度との関係についても研究・教育も行う。

2 現在の研究テーマ

（1）口腔内環境と全般的健康度に関する研究

岩木健康増進プロジェクトのビッグデータを解析することで口腔内環境と全般的健康度の関係性を明らかにする。

（2）睡眠と全般的健康度に関する研究

岩木健康増進プロジェクトのビッグデータを解析することで睡眠と全般的健康度の関係性を明らかにする。

（3）オーラルヘルスの管理方法に関する研究

小学校での歯磨き大会などを通じてオーラルヘルスの管理方法の研究を行いつつ、当該運動の普及を図る。

3 大学院への入学方法

大学院博士課程の入学資格を有する者（6年制学部の卒業者、大学院修士課程の修了者）であれば卒業した学部を問わない。また、医療機関や各種の教育・研究施設に所属しながら修学する社会人枠でも入学が可能である。

4 大学院修了後の進路

学位取得後は、研究の過程で習得した科学的根拠に基づく思考を生かし、臨床医としてさらに研究を発展させることができる。また、研究者として大学やその他の研究機関で研究を継続することも可能であるとともに、研究成果を行政の中で実践する選択肢もある。

すでに各種の教育・研究施設に所属している者は、研究の過程で習得した専門知識と研究手法を自施設での研究に応用・発展させることができる。

講座名 アクティブライフプロモーション学（共同研究講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	アクティブライフプロモーション学

1 研究室構成及び紹介

本講座の教育，研究は中路重之特任教授（併任）を中心に，沢田かほり助教（専任）がそれぞれの研究テーマにしたがいながら共同で担当する。当講座は弘前市における「地域保健」，「健康づくり」の推進に関わる中核施設として平成24年4月に本学大学院医学研究科内に設置された。また，これに合わせて弘前市における「健康づくり」を軸とした地域保健活動を推進するため，本講座が中心となり同市の地域保健，健康推進に関わる人材の育成を行う。さらに，本講座では弘前市を題材とした健康科学に関わる研究成果の公表や各種講演の企画や開催等を通じ，同市民に対し生活習慣病の予防，改善策や健康の維持，増進策に関わる知識を啓発，普及すると共に，これに関わる具体的な方法や行動を助言，指導する。また，本講座ではこれに関わる社会的基盤の整備と地域システムの構築を目指す。すなわち，本講座ではこれらの活動の有効性を社会医学，健康科学的観点から検証する。

2 現在の研究テーマ

本講座では主に本学社会医学講座が旧中津軽郡岩木町（現弘前市岩木地区）との連携事業として平成17年に創設し，平成18年度から弘前市との連携事業となった「岩木健康増進プロジェクト」（弘前市岩木地区における地域健康増進活動）を活用し，研究活動を行う。

（1）生活習慣病の発症要因，メカニズムの解明

「岩木健康増進プロジェクト」で行う「プロジェクト健診（成人対象）」や「小中学生健康調査（小学5年生～中学3年生対象）」の調査データを活用し，生活習慣病の発症要因やメカニズム，生活習慣と健康状況の関連等を明らかにする。

（2）生活習慣病の予防，改善策及び地域健康づくり対策の構築とその効果の検証

（1）により得られた研究結果を元に生活習慣病の改善，予防対策及び地域健康づくり対策を抽出，立案し，これを「岩木健康増進プロジェクト」で実施している「健康実践教室」や弘前全域で展開している「ヒロダイいきいき元気塾」等で実行し，その有効性を検証する。

（3）地域健康づくりに関する人材育成とその応用の効果を検証

弘前市全域における健康づくり対策に必要な人材（健康づくりの指導者＝リーダー）を弘前市と連携，協力し本講座で育成する。また，市民のニーズに合せ育成した人材を実際の健康づくり活動に登用し，市民の地域健康づくり活動を推進，活性化させる。また，これにより構築，運用される地域健康づくり対策及びそのシステムの有効性を検証する。

3 大学院への入学方法

大学院博士課程の入学資格を有する者（6年制学部の卒業者，大学院修士課程の修了者）であれば卒業した学部を問わない。また，医療機関や各種の教育・研究施設に所属しながら修学する社会人枠でも入学が可能である。

4 大学院修了後の進路

学位取得後は，研究の過程で習得した科学的根拠に基づく思考を生かし，臨床医としてさらに研究を発展させることができる。また，研究者として大学やその他の研究機関で研究を継続することも可能であるとともに，研究成果を行政の中で実践する選択肢もある。

既に各種の教育・研究施設に所属している者は，研究の過程で習得した専門知識と研究手法を自施設での研究に応用・発展させることができる。

講座名 先制栄養医学（共同研究講座）

領 域	教 育 研 究 分 野
総 合 医 療 ・ 健 康 科 学	先 制 栄 養 医 学

1 研究室構成及び紹介

先制栄養とは、未病段階からの栄養状況（摂取・代謝）を把握し、栄養学の観点から疾病予防・健康増進に積極的に役立てるための学問領域である。通常の公衆栄養あるいは疾病予防・健康増進の一部という捉え方ではなく、そのための栄養学を先鋭的に追及することで、これまでにない新しい形の栄養学の在り方を目指すものです。

2 現在の研究テーマ

岩木健康増進プロジェクト（プロジェクト健診, 小中学校健康調査, 運動教室）や競技スポーツ選手のフィールド調査において、一般人から有病者、あるいは各レベルのスポーツ選手を対象とし、栄養状況と関連項目を調査測定し、そのビッグデータを解析することで、疾病予防・健康増進に役立つ栄養学を確立する。

3 大学院への入学方法

大学院博士課程の入学資格を有する者（6年制学部の卒業者、大学院修士課程の修了者）であれば卒業した学部を問わない。また、医療機関や各種の教育・研究施設に所属しながら修学する社会人枠でも入学が可能である。

4 大学院修了後の進路

学位取得後は、研究の過程で習得した科学的根拠に基づく思考を生かし、研究者として大学やその他の研究機関で研究を継続することも可能であるとともに、研究成果を行政の中で実践する選択肢もある。既に各種の教育・研究施設に所属している者は、研究の過程で習得した専門知識と研究手法を自施設での研究に応用・発展させることができる。

講座名 生体高分子健康科学

領 域	教 育 研 究 分 野
病 態 制 御 科 学	生 体 高 分 子 健 康 科 学

1 研究室構成及び紹介

炎症は、炎症性疾患はもとより、がんや糖尿病など多くの疾患の原因となる。従って、さまざまな疾患の予防・治療の根本的な対策として、炎症の制御がきわめて重要である。さらに、腸内細菌などのマイクロビオータが炎症制御に重要な役割を果たすことが明らかになりつつある。このような観点から、プロテオグリカンなど高分子生理活性物質の粘膜及び全身炎症の制御についてマイクロビオータの役割を含めたメカニズムを解明することにより、これを医学・医療に応用し、健康に資することを目的として研究を行っている。

2 現在の研究テーマ

1. プロテオグリカン含有画分を含む天然高分子生理活性物質の経口投与による各種炎症性疾患モデルに対する予防・治療効果メカニズムの解明
2. プロテオグリカン含有画分を含む天然高分子生理活性物質の炎症制御活性発現における腸内マイクロビオータの動態の解析
3. 腸内マイクロビオータと腸管免疫のクロストークの解析
4. 天然高分子生理活性物質の構造と炎症制御活性発現の相関性の解析
5. 天然高分子生理活性物質の炎症制御活性の探索とそのメカニズムの解析
6. 皮膚マイクロビオータの炎症制御における関与とそのメカニズムの解析
7. 黄色ブドウ球菌と皮膚マイクロビオータの共生・拮抗とスーパー抗原毒素の役割の解明

3 大学院への入学方法

2年間の初期臨床研修を受けた後に進学するのが望ましい。医学科及び医学部以外の卒業生も歓迎する。研究に意欲のある人間であれば、そのバックグラウンドがどうであれ、積極的に受け入れている。

4 大学院修了後の進路

終了後、基礎医学研究者あるいは臨床医として研究を発展・継続させ、さらなる研究の道を目指すことが可能である。

11. 収容定員及び在籍学生数（平成29年5月1日現在）

（1）収容定員

領 域	入学定員	収容定員
分子遺伝情報科学 脳神経科学 腫瘍制御科学 循環病態科学 機能再建・再生科学 総合医療・健康科学 感覚統合科学 病態制御科学 成育科学	60	220
計	60	220

（2）在籍者数

領 域	区分	1年	2年	3年	4年	小計	備考
分子遺伝情報科学	現員	〈2〉 2	〈1〉 1	〈1〉 1		〈4〉 4	
脳神経科学	現員	5	〈1〉 7	4	〈1〉 7	〈2〉 23	
腫瘍制御科学	現員	11	14	5	11	41	
循環病態科学	現員	〈1〉 4	6	3	6	〈1〉 19	
機能再建・再生科学	現員	9	6	8	〈1〉 10	〈1〉 33	
総合医療・健康科学	現員	11	9	10	17	47	
感覚統合科学	現員	3	4	3	6	16	
病態制御科学	現員	10	〈3〉 16	9	〈1〉 10	〈4〉 45	
成育科学	現員	6	4	4	4	18	
合 計	定員	60	60	50	50	210	
	現員	〈3〉 61	〈5〉 67	〈1〉 47	〈3〉 71	〈12〉 246	

注 〈 〉 内数字は、外国人留学生を内数で示す。

12. 入学状況及び就職状況

(1) 平成29年度入学状況

平成29年4月1日現在

領 域	入学定員	入学者数	合格者数	受験者数	志願者数
分子遺伝情報科学	60				
脳 神 経 科 学		5	5	5	5
腫 瘍 制 御 科 学		11	11	11	11
循 環 病 態 科 学		4	4	4	4
機能再建・再生科学		9	9	9	9
総合医療・健康科学		12	12	12	12
感 覚 統 合 科 学		3	3	3	3
病 態 制 御 科 学		9	9	9	10
成 育 科 学		6	6	6	6
計	60	59	59	59	60

* 入学者の内訳

平成29年4月1日現在

領 域	入学者数	入学者の内訳				
		医 師 獣 医 学 部 卒	修士修了	社会人	留学生	その他
分子遺伝情報科学						
脳 神 経 科 学	5			5		
腫 瘍 制 御 科 学	11			11		
循 環 病 態 科 学	4			3	1	
機能再建・再生科学	9			9		
総合医療・健康科学	12		4	8		
感 覚 統 合 科 学	3			3		
病 態 制 御 科 学	9			8		1
成 育 科 学	6			6		
計	59	0	4	53	1	1

(備考) 入学者59名のうち、本学医学部以外の出身者18名

(2) 平成28年度修了者の就職状況

領 域	修了者数	修了者の内訳				
		大学教員	医師	医員	その他	計
分子遺伝情報科学						0
脳 神 経 科 学	3		1	1	1	3
腫 瘍 制 御 科 学	8	1	6	1		8
循 環 病 態 科 学	5		4		1	5
機能再建・再生科学	1		1			1
総合医療・健康科学	10	4	2	1	3	10
感 覚 統 合 科 学	4	1	3			4
病 態 制 御 科 学	7		5		1	6
成 育 科 学	2		2	1		3
計	40	6	24	4	6	40

13. 過去5年間の研究生在籍者数

平成29年5月1日現在

学部・研究科の別 年度		医 学 部 研 究 生 (名)	医学研究科研究生 (名)	基 礎・臨 床 別 計 (名)	合 計 (名)
平成22年度	基礎	12	3	15	25
	臨床	4	6	10	
平成23年度	基礎	4	2	6	15
	臨床	2	7	9	
平成24年度	基礎	2	2	4	11
	臨床	1	6	7	
平成25年度	基礎	2	1	3	10
	臨床	1	6	7	
平成26年度	基礎	3	0	3	10
	臨床	1	6	7	
平成27年度	基礎	2	1	3	14
	臨床	2	9	11	
平成28年度	基礎	0	0	0	9
	臨床	2	7	9	
平成29年度	基礎	1	0	1	7
	臨床	1	5	6	

14. 学位授与数

年度 \ 甲・乙の別	甲 (課程修了)	乙 (論文提出)	計
平成23年度	42	2	44
平成24年度	46	2	48
平成25年度	58	1	59
平成26年度	39	1	40
平成27年度	49	2	51
平成28年度	40	2	42

新制累計 (昭和36年度～平成28年度)	1,989	886	2,875
-------------------------	-------	-----	-------

旧制累計 (昭和31年度～昭和34年度)	469		
-------------------------	-----	--	--

15. 平成28年度博士（医学）の学位取得者及び論文題目

（1）課程修了者

学位授与番号	氏 名	所 属 講 座	博 士 論 文 名
医博第1950号	津 山 博 匡	薬 剤 学	バイオシミラー製剤採用に向けたバイオ医薬品の安全性・有用性の評価
医博第1951号	淵之上 康 平	産 科 婦 人 科 学	Expression of retinoid-related orphan receptor γ t (ROR γ t) on NK22 cells in the peripheral blood and uterine endometrium of women with unexplained recurrent pregnancy loss and unexplained infertility (リスク因子不明不育症患者と原因不明不妊症患者における末梢血および子宮内膜 NK22細胞に対する ROR γ t 発現について)
医博第1952号	丹 野 倫 宏	循 環 呼 吸 腎 臓 内 科 学	Olmesartan inhibits cardiac hypertrophy in mice overexpressing renin independently of blood pressure: its beneficial effects on ACE2/Ang(1-7)/Mas axis and NADPH oxidase expression (オルメサルタンはレニン過剰発現マウスにおいて血圧非依存的に心肥大を抑制する：ACE2/Ang(1-7)/Mas 系と NADPH オキシダーゼ発現への有効性に関する検討)
医博第1953号	久 保 一 利	神 経 精 神 医 学	Relationship between quality of life and restless legs syndrome among a community-dwelling population in Japan. (日本の地域住民におけるレストレスレッグス症候群と QOL の関係)
医博第1954号	野 口 智 子	麻 酔 科 学	Lactate level during Cardiopulmonary Bypass as A Predictor of Postoperative Outcomes in Adult Patients Undergoing Cardiac Surgery. (成人心臓手術における術後アウトカム予測因子としての人工心肺中血清乳酸値)
医博第1955号	及 川 真 亮	泌 尿 器 科 学	Significance of serum N-glycan profiling as a diagnostic biomarker in urothelial carcinoma (血清 N-glycan profiling の尿路上皮癌診断バイオマーカーとしての有用性)
医博第1956号	成 田 拓 磨	泌 尿 器 科 学 (がんプロセス)	The impact of extended lymph node dissection versus neoadjuvant therapy with limited lymph node dissection on biochemical recurrence in high-risk prostate cancer patients treated with radical prostatectomy: a multi-institutional analysis (高リスク前立腺癌に対する拡大リンパ節郭清術とネオアジュバント療法＋限局郭清術が前立腺全摘除術後の生化学的再発に及ぼす影響：多施設共同試験)
医博第1957号	萩 原 和 久	泌 尿 器 科 学	Efficacy and Safety of Silodosin and Dutasteride Combination Therapy in Acute Urinary Retention due to Benign Prostatic Hyperplasia: A Single-Arm Prospective Study (前立腺肥大症による急性尿閉に対するシロドシンとデュタステリド併用療法の有効性と安全性)
医博第1958号	福 士 謙	泌 尿 器 科 学	Quality-of-life evaluation during platinum-based neoadjuvant chemotherapies for urothelial carcinoma (プラチナ製剤を用いた尿路上皮癌に対するネオアジュバント療法の QOL 評価)
医博第1959号	山 内 愛 紗	産 科 婦 人 科 学	Functional role of tau protein in epithelial ovarian cancer cells (上皮性卵巣癌細胞におけるタウ蛋白の機能)

学位授与番号	氏 名	所 属 講 座	博 士 論 文 名
医博第1960号	白 戸 弘 志	循 環 呼 吸 腎 臓 内 科 学	Impact of Atrial Natriuretic Peptide Value for Predicting Paroxysmal Atrial Fibrillation in Ischemic Stroke Patients (虚血性脳卒中患者の発作性心房細動検出における心房利尿ペプチドの測定意義)
医博第1961号	西 崎 公 貴	循 環 呼 吸 腎 臓 内 科 学	Safety and efficacy of contemporary catheter ablation for atrial fibrillation patients with a history of cardioembolic stroke in the era of direct oral anticoagulants (直接経口抗凝固薬時代における、脳梗塞既往を有する心房細動患者に対する最新のカテーテルアブレーション治療の安全性と有効性)
医博第1962号	後 藤 武	胸 部 心 臓 血 管 外 科 学	Hydrodynamic evaluation of a new dispersive aortic cannula (Stealthflow) (新しい分散型大動脈カニューレ(ステルスフロー)の流動特性解析)
医博第1963号	服 部 薫	胸 部 心 臓 血 管 外 科 学	Novel method of assessing ascending aorta with a stenotic bicuspid aortic valve (三次元モデル作成ソフトを用いた二尖大動脈弁狭窄に伴う上行大動脈の評価)
医博第1964号	山 内 良 太	整 形 外 科 学	Association of clinical and radiographic signs of femoroacetabular impingement in the general population (一般住民における大腿骨寛骨臼インピンジメントの理学所見と X 線所見の関連)
医博第1965号	飯 塚 浩 史	社 会 医 学	高齢者における残存歯数の経時的変化と骨密度の関係
医博第1966号	小 野 真 実	社 会 医 学	女性における食物繊維摂取量と動脈硬化リスクの関係
医博第1967号	棟 方 理	社 会 医 学	弘前市の一般住民における腸内細菌の種多様性と加齢との関係
医博第1968号	金 子 美由紀	社 会 医 学	好中球機能と筋疲労との関係：女子バレーボール選手での検討 (Relationship between neutrophil functions and muscle fatigue in female volleyball players)
医博第1969号	安 達 功 武	眼 科 学	Optical coherence tomography of retinal degeneration in Royal College of Surgeons rats and its correlation with morphology and electroretinography (RCS ラット網膜変性における光干渉断層計所見と組織所見及び網膜電図との関係)
医博第1970号	高 橋 静	眼 科 学	Profiles of Inflammatory Cytokines in the Vitreous Fluid from Patients with Rhegmatogenous Retinal Detachment and their Correlations with Clinical Features (裂孔原性網膜剥離硝子体中の炎症性サイトカインと臨床像との関連)
医博第1971号	前 野 淳 子	眼 科 学	CHARACTERIZATION OF BIOLOGICAL ANTIOXIDANT POTENTIAL IN THE VITREOUS FLUID FROM PATIENTS WITH RHEGMATOGENOUS RETINAL DETACHMENT (裂孔原性網膜剥離硝子体中の抗酸化力の解析)
医博第1972号	工 藤 直 美	耳 鼻 咽 喉 科 学	Immunohistological Analysis of Eotaxin and RANTES in the Model Animal of Eosinophilic Otitis Media (好酸球性中耳炎モデル動物における Eotaxin と RANTES の免疫組織学的分析)

学位授与番号	氏 名	所 属 講 座	博 士 論 文 名
医博第1973号	佐 竹 美 和	消 化 器 血 液 内 科 学	Capsule endoscopy for differentiating early Crohn's disease from Behcet's disease. (早期クローン病のベーチェット病との鑑別におけるカプセル内視鏡の有用性)
医博第1974号	中 川 悟	消 化 器 血 液 内 科 学	Helicobacter pylori 感染の除菌が BMI, 脂質摂取量, 血清脂質濃度へ及ぼす影響についての検討
医博第1975号	宮 澤 邦 昭	消 化 器 血 液 内 科 学	早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の周術期における安静時必要エネルギーとストレス係数の変化についての検討
医博第1976号	石 亀 敬 子	内 分 泌 代 謝 内 科 学	Regulation of the expression of corticotropin-releasing factor gene by pyroglutamylated RFamide peptide in rat hypothalamic 4B cells (視床下部4B細胞における pyroglutamylated RFamide peptide による CRF 遺伝子発現調節機序についての検討)
医博第1977号	大 石 舞 香	産 科 婦 人 科 学	Hypertensive disorders of pregnancy increase the risk for chronic kidney disease: a population-based retrospective study (妊娠高血圧症候群は慢性腎臓病のリスクを増加させる——一般住民を対象とした後方視的検討——)
医博第1978号	山 本 絢 子	臨 床 検 査 医 学	Intracellular storage of Duffy antigen-binding chemokines by Duffy-positive red blood cells (Duffy 親和性ケモカインは Duffy 陽性赤血球内に蓄積する)
医博第1979号	早 狩 亮	脳 血 管 病 態 学	Critical role of IRF-3 in the direct regulation of dsRNA-induced retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) expression (二本鎖 RNA 依存的なレチノイン酸誘導遺伝子 -I の発現誘導における IRF-3の直接的制御)
医博第1980号	長 瀬 勇 人	消 化 器 外 科 学	4-Methylumbelliferone Suppresses Hyaluronan Synthesis and Tumor Progression in SCID Mice Intra-Abdominally Inoculated With Pancreatic Cancer Cells (膵癌細胞腹腔内投与マウスにおける4-メチルウンベリフェロンのヒアルロン酸合成抑制作用および抗腫瘍効果)
医博第1981号	小 川 武 志	社 会 医 学	男子柔道選手とトレーニングを実施した女子柔道選手の身体的負担の特性—筋逸脱酵素値及び好中球機能からの検討— (Features of physical burdens on female judoists who trained with male judoists, by assessing myogenic enzymes and neutrophil functions.)
医博第1982号	溝 口 絵里加	社 会 医 学	親子体操実施が母親の育児ストレスと身体に及ぼす効果
医博第1983号	村 澤 洋 美	泌 尿 器 科 学	The utility of neoadjuvant gemcitabine plus carboplatin followed by immediate radical cystectomy in patients with muscle-invasive bladder cancer who are ineligible for cisplatin-based chemotherapy (シスプラチン不適格筋層浸潤膀胱癌に対するゲムシタビン + カルボプラチンによる術前化学療法の有効性)
医博第1984号	葛 西 俊 範	麻 酔 科 学	THE EFFECTS OF CARDIAC OUTPUT ON THE INITIAL DISTRIBUTION VOLUME OF GLUCOSE IN THE ABSENCE OF FLUID GAIN OR LOSS IN PIGS (循環体流量を変化させない心拍出量変化のブドウ糖初期分布用量への影響の検討)

学位授与番号	氏 名	所 属 講 座	博 士 論 文 名
医博第1985号	池 田 史 圭	小 児 科 学	Exome sequencing identified RPS15A as a novel causative gene for Diamond-Blackfan anemia (エクソームシーケンスで同定されたダイヤモンド・ブラックファン貧血新規原因遺伝子 RPS15A)
医博第1986号	西 村 雅 之	麻 酔 科 学	WHAT IS HAPPENING IN THE ARDS PIGLET LUNGS: - THE ORIGIN OF B-LINES ON ULTRASONOGRAPHY - (子豚のARDS肺では何が起こっているか - 超音波検査におけるB-linesの成因-)
医博第1987号	乾 明 成	歯科口腔外科学	Teeth and physical fitness in a community-dwelling 40 to 79-year-old Japanese population (40歳から79歳にかけての日本人地域住民における歯と身体機能)
医博第1988号	田 中 里 奈	社 会 医 学	Influence of distance from home to hospital on survival among patients with lung cancer (肺がん患者における自宅から医療機関までの距離が生存率へ与える影響)
医博第1989号	神 庭 文	内 分 泌 代 謝 内 科 学	Association between Higher Serum Cortisol Levels and Decreased Insulin Secretion in a General Population (生理的レベルのコルチゾール増加は、インスリン抵抗性ではなくインスリン分泌低下と関連している)

(2) 論文提出者

学位授与番号	氏 名	所 属 講 座	博 士 論 文 名
医第885号	河 合 深 里	循 環 器 腎 臓 内 科 学	Mitochondrial inhibitory factor protein 1 functions as an endogenous inhibitor for coupling factor 6 (Inhibitory factor 1は coupling factor 6の内因性阻害物質として機能する)
医第886号	佐々木 憲 一	循 環 器 腎 臓 内 科 学	Revisit of Typical Counterclockwise Atrial Flutter Wave in the ECG: Electroanatomic Studies on the Determinants of the Morphology (通常型心房粗動の粗動波への再訪：3次元マッピングを駆使した心電図波形解析)

16. 弘前大学医学部学術賞受賞者

平成8年度（第1回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
伊 藤 悦 朗	小 児 科	講 師	造血機構の分子生物学的研究
宇佐美 真 一	耳鼻咽喉科学講座	助教授	内耳の神経伝達物質に関する研究

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
一 戸 紀 孝	解剖学第一講座	助 手	Quantitative electronmicroscopic study of the oculomotor parasympath-etic neurons projecting to the ciliary ganglion in cats : Differences in the synaptic (axo-somatic and axo-proximal dendrite) organization between dorsal and ventral cell groups.
坂 本 十 一	第 一 内 科	医 員	Comparison of Resistant Starch With Cellulose Diet on 1, 2-Dimethyl-hydrazine-Induced Colonic Carcinogenesis in Rats.

平成9年度（第2回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
高 垣 啓 一	生化学第一講座	助教授	エンド型グリコシダーゼの発掘とその糖鎖工学的展開
渡 部 肇	第 三 内 科	講 師	神経ペプチドと下垂体ホルモン分泌—基礎的・臨床的研究

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
神 村 典 孝	生理学第一講座 泌 尿 器 科	助 手	Excitatory and inhibitory actions of norepinephrine on the Ba ²⁺ current through L-type Ca ²⁺ channels of smooth muscle cells of guineapig vas deferens.
安 井 規 雄	神経精神医学講座	研究生	Effects of thioridazine, an inhibitor of CYP2D6, on the steady-state plasma concentrations of the enantiomers of mianserin and its active metabolite, desmethylmianserin, in depressed Japanese patients.

平成10年度（第3回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
澤 村 大 輔	皮 膚 科	講 師	皮膚に存在する細胞を標的とする遺伝子治療の基礎的研究
廣 田 和 美	麻 酔 科	助 手	麻酔・集中治療に関する薬剤の気道に及ぼす影響 (in Vivo) とその作用機序

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
孟 宪 民	皮膚科学講座	大学院生	Keratinocyte gene therapy for systemic diseases : circulating interleukin-10 released from gene-transferred keratinocytes inhibits contact hyper-sensitivity at distant of the skin
小 山 基	病理学第一講座	名川町立 病院 外科職員	Accelerated loss of islet β cells in sucrose-fed Goto-Kakizaki rats, a genetic model of non-insulin-dependent diabetes mellitus

平成11年度（第4回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
岡 田 元 宏	神経精神医学講座	助 手	神経伝達物質遊離機構に及ぼすプリン受容体の相互作用とその遊離機序の解明

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
馬 場 貴 子	皮膚科学講座	三沢市立 三沢病院 皮膚科 医 長	Inhibitory effect of β -thujaplicin on ultraviolet B-induced apoptosis in mouse keratinocytes
田 澤 俊 幸	外科学第二講座	医 員	A novel 4-methylumbellifery- β -D-xyloside derivative, sulfate- <i>O</i> -3-xylosyl β 1-(4-methylumbelliferone), isolated from culture medium of human skin fibroblasts, and its role in methylumbelliferone-initiated glycosaminoglycan biosynthesis

平成12年度（第5回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
菅 野 隆 浩	生理学第一講座	助教授	睪丸細胞機能に対するホルモン調節機構の研究
大 熊 洋 揮	脳神経外科学講座	講 師	クモ膜下出血後の諸病態における脳微小循環障害の意義

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
佐々木 真 吾	第二内科	医 員	NO is involved in MCh-induced accentuated antagonism via type II PDE in the canine blood-perfused SA node.
高 橋 克 郎	外科学第二講座	藤崎町 国保藤崎 病院 外科医員	Warm ischemia and reperfusion injury in diet-induced canine fatty livers.

平成13年度（第6回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
土 岐 力	小児科学講座	助 手	造血細胞の分化・増殖における組織特異的転写因子の機能解析

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
水 木 大 介	細菌学講座	附属病院 皮膚科 助手	Interference between Host Resistance to <i>Listeria Monocytogenes</i> Infection and Ovalbumin-Induced Allergic Responses in Mice
中 野 高 広	脳神経外 科学講座	公立 野辺地病 院医 師	Use of ²⁰¹ Tl SPECT for Evaluation of Biologic Behavior in Pituitary Adenomas

平成14年度（第7回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
小 谷 直 樹	附属病院麻酔科	講 師	難治性帯状疱疹後神経痛に対する新しい治療法と病態の研究

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
奈 良 昌 樹	外科学第二講座	むつ総合 病院外科 医 師	Efficacy of double filtration plasmapheretic cross-circulation using a high permeability membrane between totally hepatectomized dogs and donor pigs.
石 戸 圭之輔	生化学第一講座	市立函館 病院外科 医 師	Enzymatic attachment of glycosaminoglycan chain to peptide using the sugar chain transfer reaction with endo- β -xylosidase.

平成15年度（第8回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
森 文 秋	脳研・分子病態部門	助教授	神経変性疾患脳におけるシヌクレイン蛋白の発現機構と細胞病理

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
差 波 拓 志	細菌学講座	助 手	Effective induction of acquired resistance to <i>Listeria monocytogenes</i> by immunizing mice with in vivo-infected dendritic cells
中 野 あおい	皮膚科学講座	国立 弘前病院 医 師	Novel SLC39A4 mutations in acrodermatitis enteropathica

平成16年度（第9回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
今 泉 忠 淳	脳研・脳血管病態部門	助 手	免疫・炎症反応を制御する新しい分子機構に関する研究
大 黒 浩	眼 科 学 講 座	助教授	遺伝性および自己免疫性網膜変性症の分子病態解析と治療法の開発

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
木 村 正 臣	内科学第二講座	三沢市立 三沢病院 内科医長	Mechanism of ST elevation and ventricular arrhythmias in experimental Brugada syndrome model
神 尾 卓 哉	小 児 科 学 講 座	大館市立 総合病院 小児科医長	B cell-specific transcription factor BACH2 modifies the cytotoxic effects of anticancer drugs.

平成17年度（第10回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
古 郡 規 雄	神経精神医学講座	講 師	薬物動態に対する薬物輸送トランスポーターの役割について
蔭 山 和 則	内分泌代謝感染症内科	講 師	Corticotropin-releasing factor (CRF) 関連ペプチドの新たな作用とその作用機序についての解明

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
池 島 進	細 菌 学 講 座 内科学第三講座	青森県立 中央病院 内分泌内科 医 師	Impairment of Host Resistance to <i>Listeria monocytogenes</i> Infection in Liver of <i>db/db</i> and <i>ob/ob</i> Mice.
富 田 泰 史	内科学第二講座 臨床検査医学講座	弘前脳卒中 センター 内科医師	Troglitazone and 15-deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J^2 inhibit shear-induced coupling factor 6 release in endothelial cells.

平成18年度（第11回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
今 淳	生化学第一講座	助教授	皮膚の病態形成機構に関する分子生物学的および糖鎖生物学的研究：正常な再生・修復とアンチエイジング（抗加齢）

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
七 島 直 樹	生化学第二講座	医 学 部 保健学科 助 手	Nuclear location of STAT5A modified with O-linked N-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki hairless rat. (弘前ヘアレスラットの乳腺における O-グルコシド型 N-アセチルグルコサミンで修飾された STAT5A の核局在と早期退縮)
工 藤 貴 徳	内科学第三講座	附属病院 内分泌・ 糖尿病代謝・ 感染症内科 医 員	Novel mechanism of chronic exposure of oleic acid-induced insulim release impairment in rat pancreatic β -cells.

平成19年度（第12回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
胡 東 良	感染生体防御学講座	准教授	ブドウ球菌エンテロトキシン分子構造とその機能解析に関する研究

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
櫻 庭 裕 丈	消化器内科・血液内科 膠原病内科	医 員	Blockade of TGF- β accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis

平成20年度（第13回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
柿 崎 育 子	糖鎖工学講座	准教授	生体内糖鎖の構造と機能に関する研究（医学応用を目指して）
横 山 良 仁	産科婦人科学講座	講 師	血管新生阻害を標的とする進行卵巣癌の新規治療法の開発

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
神 可 代	皮膚科学講座	助 教	Epistatic Connections between MITF and Endothelin Signaling in Waardenburg Syndrome and Other Pigmentary Disorders
佐 藤 知 彦	小児科学講座	西北中央病院 小児科第2科長	Functional analysis of JAK3 mutations in transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down syndrome

平成21年度（第14回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
杉 本 一 博	臨床検査医学講座	准教授	糖尿病性神経障害の成因に関する基礎的研究：インスリン作用異常の役割
中 野 創	皮膚科学講座	准教授	皮膚疾患の遺伝子診断

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
山 田 雄 大	病態薬理学講座	助 教	Vasoconstrictor effect of aldosterone via angiotensin II type 1 (AT1) receptor: Possible role of AT1 receptor dimerization
佐 藤 裕 紀	消化器血液内科学講座	三沢市立三沢病院 医 師	Cyclosporine regulates intestinal epithelial apoptosis via TGF- β -related signaling
棟 方 聡	附属病院脳神経外科	助 教	Effect of a free radical scavenger, Edaravone in the treatment of patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage

平成22年度（第15回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
下 山 克	附属病院消化器内科	講 師	Helicobacter 感染と消化器疾患の関連についての研究
皆 川 正 仁	胸部心臓血管外科講座	講 師	体外循環手術における脳合併症の予防と弓部大動脈瘤手術の手術成績の向上

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
今 野 友 貴	小児科学講座	医 員	Mutations in the ribosomal protein genes in Japanese patients with Diamond-Blackfan anemia
太 田 健	消化器血液内科学講座	国立病院機構弘前病院 医 師	Interferon- α 2b induces p21 ^{cip1/waf1} degradation and cell proliferation in HeLa cells

平成23年度（第16回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
浅 野 研一郎	弘前大学医学部附属病院 脳神経外科	講 師	悪性グリオーマ治療成績向上のための多角的治療戦略の構築について
丹 治 邦 和	弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座	助 教	神経変性疾患における異常タンパク質の凝集機序の解明

学術奨励賞

氏 名	所 属 当該研究の行われた講座	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
三 浦 卓 也	青 森 市 民 病 院 消化器外科学講座	外 科 副 部 長	Sustained repression and translocation of Ntcp and expression of Mrp4 for cholestasis after rat 90% partial hepatectomy
鈴 木 一 広	三 沢 市 立 三 沢 病 院 消化器血液内科学講座	内科医師	Mesenchymal Stromal Cells Promote Tumor Growth Through the Enhancement of Neovascularization

平成24年度（第17回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
櫛 方 哲 也	医 学 部 附 属 病 院 麻 酔 科	講 師	全身麻酔機序の研究－古典的神経伝達物質ノルアドレナリンと新たな内因性覚醒物質オレキシンのリンクからの新たな展望
松 宮 朋 穂	脳 血 管 病 態 学 講 座	助 教	細胞内ウイルスセンサーを中心とした自然免疫応答機構の解明

学術奨励賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
澁 谷 修 司	循環呼吸腎臓内科学	大館市立 総 合 病 院 院 医 長	Coronary Vasospasm Induced in Transgenic Mouse with the Increased Phospholipase C- δ 1Activity
小田桐 紗 織	神経解剖・細胞組織学講座	助 手	Autophagic adapter protein NBR1 is localized in Lewy bodies and glial cytoplasmic inclusions and is involved in aggregate formation in α -synucleinopathy
高 橋 一 徳	分 子 病 態 病 理 学	青森県立 中 央 病 院 院 医 師	Amelioration of Acute Kidney Injury in Lipopolysaccharide-induced Systemic Inflammatory Response Syndrome by an Aldose Reductase Inhibitor, Pidarestat

平成25年度（第18回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
水 上 浩 哉	分 子 病 態 病 理 学 講 座	講 師	2型糖尿病における膵 β 細胞容積低下機序の解明
菅 原 典 夫	医学部附属病院 神経科精神科	講 師	統合失調症患者の身体的健康に関する研究

学術奨励賞

氏 名	所 属 当該研究の行われた講座	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
田 中 寿 志	医 学 部 附 属 病 院 循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科 病 理 診 断 学 講 座	医 員	Clinical application of immunocytochemical detection of ALK rearrangement on cytology slides for detection or screening of lung adenocarcinoma

平成26年度（第19回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
福 井 淳 史	医 学 部 附 属 病 院 産 科 婦 人 科	講 師	妊娠の成立と維持におけるNK細胞の機能分担と機能発現
嶋 村 則 人	大学院医学研究科 脳神経外科学講座	講 師	脳卒中診療に対する基礎研究から臨床研究までの包括的取り組み

学術奨励賞

氏 名	所 属 当該研究の行われた講座	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
松 田 尚 也	医 学 部 附 属 病 院 脳 神 經 外 科	助 教	Role of oxidized LDL and lectin-like oxidized LDL receptor-1 in cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage.
鎌 田 耕 輔	大 館 市 立 総 合 病 院 消化器・血液・腫瘍内科 大学院医学研究科 分子病態病理学講座	医 長	Islet amyloid with macrophage migration correlates with augmented β -cell deficits in type2 diabetic patients.

平成27年度（第20回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
富 田 泰 史	大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座	准教授	心房細動から脳卒中に至る合併症リスク層別化の開発と重症化予防に向けての治療戦略

学術奨励賞

氏 名	所 属 当該研究の行われた講座	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
三 木 康 生	大学院医学研究科 脳神経病理学講座	助 教	Sigma-1 receptor is involved in degradation of intranuclear inclusions in a cellular model of Huntington's disease
村 澤 真 吾	青森県立中央病院 内 分 泌 内 科 大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座	医 員	Inhibitory effects of SOM230 on adrenocorticotrophic hormone production and corticotroph tumor cell proliferation in vitro and in vivo

平成28年度（第21回） 学術特別賞

氏 名	所 属	職 名	受 賞 研 究 課 題
樋 熊 拓 未	大学院医学研究科 心臓血管病先進治療学講座	准教授	急性心筋梗塞の予後改善に向けての取り組み：薬物療法，バイオマーカー，そして血管内イメージング
古 家 琢 也	大学院医学研究科 泌 尿 器 科 学 講 座	准教授	根治性とQOLを両立させる泌尿器悪性腫瘍の治療体系確立のための多角的研究

学術奨励賞

氏 名	所 属 当該研究の行われた講座	職 名	受 賞 論 文 タ イ ト ル
王 汝 南	中国医科大学附属 盛京医院小児科 大学院医学研究科 小 児 科 学 講 座	医 師	Loss of function mutations in RPL27 and RPS27 identified by whole-exome sequencing in Diamond-Blackfan anaemia
金 城 貴 彦	青森県立中央病院 循 環 器 科 大学院医学研究科 循環呼吸腎臓内科学講座	医 師	Enhanced p122RhoGAP/DLC-1 Expression Can Be a Cause of Coronary Spasm

17. 弘前大学大学院医学研究科医科学専攻の特徴とその要点

大学院医学研究科長

若 林 孝 一

平成19年4月に弘前大学大学院医学研究科は部局化され、私たち教員は大学院所属となった。これからも、部局化にふさわしい大学院の教育・研究を発展させてゆくことが必要と考えている。医学部卒業者の大学院進学率が一時的に低下し、研究医育成の重要性が叫ばれる中、私たちは、やはり大学院における教育・研究の重要性を改めて認識し、それに沿った活動に邁進して行くべきことを再確認した。その目標を達成するためには、大学院医学研究科の在り方を不断に検証し、必要な改革を果敢に進める必要がある。

以下に弘前大学大学院医学研究科医科学専攻の特徴とその要点を列記する。

1. 大学院医学研究科医科学専攻の運営及び将来構想の策定

大学院は、研究科教授会で運営され、その実務は「医学研究科学事委員会」がこれにあたり、大学院の諸問題を検討している。卒後臨床研修については、附属病院の「卒後臨床研修センター運営委員会」で臨床研修のあり方について検討を進めている。

2. 大学院医学研究科医科学専攻入学者選抜

1) 入学者枠

現在の医学研究科医科学専攻の入学定員は60名である。医学部卒業後2年間の臨床研修が必修化されたこと、地元の高等教育機関・研究所を含め社会人や外国人にも広く門戸を開放すること、医学研究科の特徴の一つであるスポーツ医科学に関連した大学院生を受け入れること等が考慮され、入学者選抜の枠組みは以下のようになっている。

1. 医、歯、獣医、薬（6年制）学部卒業生

臨床系は医学部（歯科口腔外科学専攻は歯学部を含む）卒業後、卒後臨床研修2年を修了（又は修了見込）した者

2. 医、歯、獣医、薬（6年制）学部以外の大学卒業生及び大学院修士課程修了者

3. 社会人

4. スポーツ医科学・社会医学推進枠 若干名

5. 外国人特別枠 若干名

2) 医学研究科社会人入学

青森県及びその近県の医療機関に医師として勤務しながら、又は、高等教育機関及び研究所等で教育・研究をしながら大学院医学研究科医科学専攻で専門的医学を学びたいという社会人に対して大学院入学の機会を提供している。その入学資格は、青森県及びその近県で教育・研究・診療に従事していること、雇用者と当専攻指導教授が共に了解をしていること、及びその就業を継続することを条件に、大学院入学試験に合格後、社会人入学枠の中で入学が認められる。平成24年度39名、平成25年度39名、平成26年度44名、平成27年度は46名、

平成28年度は54名の入学が認められている。

3) 他大学医学部出身者の当大学院入学の促進

当専攻の活性化のため、他大学医学部出身者が入学するように積極的に勧誘を進めている。県内及び隣県の臨床研修実施病院に医学研究科医科学専攻概要を送付してPRに努めている。このことは、医学研究科医科学専攻学生が自校出身者によって占められることを回避することにもつながり、また青森県の医師Uターン事業ともタイアップして、青森県の医師不足を改善することにもつながっている。ここ数年入学者が増加している。

3. 大学院の教育

1) カリキュラム

大学院の各講座において個別的講義・実習が行われている。これと並行して、共通科目として大学院授業を実施している。この授業は、毎年、新しいテーマが設定され、そのテーマ毎にそれを専門とする複数の教員によって実施されている。本年度、主なテーマとして「医学研究概論Ⅰ・Ⅱ」、「生命科学倫理学」、「最新医学の動向」等がある。また、「特別研究セミナー」、「医学研究基礎技術実習」も開講されている。

2) 昼夜開講制

社会人入学者の便宜を考慮して、教育研究科目の授業は昼夜開講制とし、大学院授業も夕刻17:00~18:30に集中して行われている。

3) Web 授業配信システムを利用した遠隔地大学院授業

遠隔地に勤務する社会人入学者の受講を容易にするため、Web 授業配信システムを用い、遠隔の地に勤務しながらリアルタイムで受講し、且つ質疑応答ができる授業を開講している。これは医系の大学院としては本研究科が全国的に初めて実施したものである。現在も社会人に対して、このシステムによる授業が進められている。

4) 次世代がん治療推進専門家養成プラン

弘前大学は平成19年度から5年間、秋田大学、岩手医科大学、岩手県立大学とともに「北東北がんプロフェッショナル養成プラン」を推進し、手術、放射線療法、化学療法などががん治療の専門医師および医学物理士などコメディカルスタッフを育成してきた。平成24年度からは東京医科歯科大学を主管校とする「次世代がん治療推進専門家養成プラン」のプログラムの中で「地域がん専門医療人養成コース」をスタートさせた。このコースでは、大学院学生は最終的には外科腫瘍医、腫瘍内科医、放射線腫瘍医いずれかの専門性を持つようになるが、修了者は3大がん治療法を理解し、地域住民を適切な治療法へと導く人材として育成される。教育では、がん診療専門医による横断的講義の他、地域医療機関現場でのOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)やがん診療拠点病院における先進医療の実習を行う。

5) 大学院生の臨床から基礎への派遣

臨床系大学院生が、その研究を基礎医学系講座で行いたいという場合、指導教授の許可の

下に基礎系講座で研究指導を受けることができる。現在多数の大学院生が基礎系講座での研究指導を受けている。また、将来臨床を志してはいるが、基礎で研究を行いたいと希望する場合は、初めから基礎系大学院に入学し研究を行っている。

6) 大学院生の国内及び国外の研究機関への派遣

大学院学生は、一定期間国内の他大学院や研究機関に派遣、単位互換制により他大学の単位を修得することや、研究の指導を受けることが可能である。これまでに多数の大学院学生を他大学に派遣している。同様に国外の研究機関への派遣も行われている。又当専攻は、国内の他大学院からも大学院学生を受け入れている。

7) ティーチングアシスタント及びリサーチアシスタント制

大学院学生の中で、学部教育（実習等）において学生の指導を補佐する者は、所属領域の申請によりティーチングアシスタントとして採用されている。同様に大学院学生が、本研究科が行う研究プロジェクト等の研究補助者として研究活動業務に従事する場合は、リサーチアシスタントとして採用されている。これらの大学院学生に一定の手当てが支給されている。（平成28年度ティーチングアシスタント採用8名、リサーチアシスタント採用10名）

4. 大学院研究生

修業年限6年の大学を卒業した者及び大学院修士課程（大学院前期課程）修了者と同等以上の学力があると医学研究科によって認められた者は大学院研究生としての入学が許可される。研究生は希望の講座に所属し、研究の指導が受けられる。そして、ある一定の年限研鑽を積み、外国語の試験に合格すると学位の申請資格が得られる。学位論文の審査手続きは、大学院学生と同様に進められ、学位論文の審査に合格すれば、博士（医学）の学位が与えられる。

5. 学位

研究科に4年以上在学し修了に必要な単位を修得した者が学位論文を提出し、論文の審査および最終試験に合格すれば、博士（医学）の学位が与えられる。なお、学位申請をする論文は、査読制を有する学術誌に印刷公表または受理された論文でなければならない。

1) 学位審査会

学位申請者は、弘前大学長宛に本審査を申請する。研究科教授会において選出された主査1名、副査2名が学位論文の審査を行う。学位論文の審査は、公開の学位審査会を開催し、口頭発表を行った後、質疑応答がなされる。この審査結果を研究科教授会に報告し、審議の後、学位授与認定を行う。学位授与が認定された者には、弘前大学より学位記、博士（医学）が授与される。

2) 大学院研究生に対しての学位審査

大学院研究生は外国語試験に合格し、学位論文に関して事前審査、本審査等所定の審査手続きを経れば、学位が授与される。

3) 大学院修業年限短縮制度

医学研究科医科学専攻で、3年次までに所定の単位を取得し、優秀な学位論文としてまとめ、研究科教授会の審査に合格すれば3年次修了時点（1年の短縮）または4年次前期修了時点（6ヶ月の短縮）で博士（医学）の学位を取得することができる。

6. 大学院学生及び大学院研究生の研究促進

1) 優秀学位論文の表彰－医学部学術賞奨励賞

学位論文が公表された後、本人の申請によりその論文が医学部学術賞審査委員会で審査され、優秀な論文と認められた場合、毎年度2篇に弘前大学医学部学術賞奨励賞が授与される。副賞として医学部鵬桜会（同窓会）から銀メダルが授与される。

なお、本賞受賞者は弘前医学会で受賞講演の機会が与えられ、その論文の要旨が学会誌「弘前医学」に掲載される。

2) 公益社団法人青森医学振興会による研究推進

平成11年3月、弘前大学医学部を中心とした地域の医学教育・研究・医療の向上推進を目的に、後援会・鵬桜医学振興会が設立され、平成13年4月にこれが発展的に解消され、公益社団法人青森医学振興会が設立された。現在、振興会会員の募集と会費徴収を行っており、この資金の多くが医学部学生や大学院学生の教育・研究のための施設改善、教育・研究の振興等に当てられている。

18. 医学研究科学事委員会（29. 4. 1 現在）

委員長：廣 田 和 美

委 員：6 名

脳血管病態学	今 泉 忠 淳
分子生体防御学	伊 東 健
小 児 科 学	伊 藤 悦 朗
皮 膚 科 学	澤 村 大 輔
麻 酔 科 学	廣 田 和 美
臨床検査医学	萱 場 広 之

弘前大学大学院医学研究科医科学専攻 概要

発行年月 平成29年6月

編集発行 弘前大学大学院医学研究科医科学専攻

連絡先 弘前大学医学研究科学務グループ大学院担当
TEL 0172-39-5206
FAX 0172-39-5209
E-mail jm5206@hirosaki-u.ac.jp
〒036-8562 弘前市在府町5番地
TEL 0172-33-5111（大代表）